
4. ゾーン別整備方針

4.1 水辺のゾーン設定の考え方

「水辺の開放と地域住民の生活を彩る憩いの場づくり」という境川修景整備の基本テーマを踏まえつつ、川幅や護岸の形状、道路や緑地、隣接地の土地利用に基づき、全体を以下の4つに区分し、それぞれの特徴を加味した整備を行うこととする。(次頁図 4.1 参照)

- ・元町エリア ⇒歴史の水辺 A・B・C ゾーン：西水門～東水門
(A ゾーン：西水門～新橋、B ゾーン：新橋～江川橋、C ゾーン：江川橋～東水門)
- ・市役所周辺エリア ⇒賑わいの水辺 D1-1 ゾーン：東水門～境川橋
- ・中町エリア ⇒住まいの水辺 D1-2 ゾーン：境川橋～入船橋
- ・新町エリア ⇒水遊びの水辺 D2 ゾーン：入船橋～日の出橋

※上記4区分以外の海辺の交歓エリアは、本計画に含みませんが、境川河口部では、水門・排水機場について、千葉県と協議し、整備を促進する。また、海岸部では、浦安市総合計画において市民が海とふれあいながら憩い、交流できる拠点として位置づけられており、引き続き市民が海を身近に感じられる空間の創出を図るとともに、大規模な公園などのこれまでに集積してきた機能や水際線に位置する立地特性を活かしながら、更なる魅力の向上を図る。



図 4.1 ゾーン設定

4.2 A・B・Cゾーン 元町エリア（歴史の水辺）整備方針

整備テーマ

～ 漁師町の風情を伝える水辺の思い出 ～

山本周五郎が浦安町に滞在していた昭和初期の浦安の水辺の風景をテーマにした修景を行う。

- ・水質の改善
浚渫工事や旧江戸川からの流水などによる水質浄化。
- ・旧江戸川遊歩道との連携
境川から旧江戸川遊歩道へ接続する階段の設置。
- ・歩行者への配慮
安心して歩ける親水施設の整備。
歩行者優先型の沿川道路整備と交通規制。
川沿いの緑化推進。
川沿いの景観を引き立て歩行者に心地よい街路灯の整備。
- ・歴史的景観の活用
青べか物語に描かれた漁村の雰囲気を留める歴史的景観を活かしたまちづくり。
東西線鉄橋と西水門の見える昭和中期の歴史的景観を活かしたまちづくり。
- ・歴史的旧市街との連携強化
歴史的旧市街の景観や社寺などの景観を楽しめる散策ルートづくり。
- ・漁師町の生活を体験するフィールドミュージアムの展開
投網、海苔干し、貝剥き、べか舟操船体験等の実施体制づくり。
アサリ飯などの食の体験の提供。
- ・水辺に賑わいを取り戻す商業イベントの開催と商業施設の立地誘導。

浦安駅に近く、歴史的風情の残る水辺の景観を活かし、オープンカフェやマルシェなどの商業イベントを活性化するとともに、商業施設の立地誘導を促進する。



参考：浦安市デザインマンホール

図 4.2 浦安市デザインマンホール

(令和2年1月20日より設置)

4.2.1 Aゾーンの整備方針

(1) 現状と課題および整備方針一覧表

表 4.1 現状と課題および整備方針一覧表

全体整備方針		Aゾーンの主な現状と課題	ゾーン別整備方針
前提条件	水害対策	東西水門で水位安定化済み 水門と護岸は耐震化されていない 市街地の地盤が低く内水氾濫の危険性がある	<ul style="list-style-type: none"> ・水門の耐震化 ・護岸の耐震化 ・雨水排除ポンプの能力向上
	水質改善	近年は基準値クリア、悪臭があると の住民からの改善要望 沈船・投棄物がある	<ul style="list-style-type: none"> ・水質の改善 (詳細調査、改善方策検討含む) ・沈船・投棄物の撤去
基本テーマ	緑のみち	沿川に街路樹等の植栽スペースが 無い 歩道が無く車の交通量が多い 街路灯はあるが景観への配慮は不 十分	<ul style="list-style-type: none"> ・護岸やパラペットの緑化 ・安全な歩行者空間の拡充 ・歩行者に心地よい街路灯の整備
	水のみち	小段が老朽化し危険 親水施設へのアクセスが不便 旧江戸川の遊歩道へ接続する動線 が無い	<ul style="list-style-type: none"> ・親水施設改修・安全対策 ・階段の再整備と斜路の設置 ・旧江戸川遊歩道との連携
	歴史の みち	周囲に広がる歴史的市街地とのつ ながりが希薄	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的景観を活かしたまちづくり ・歴史的旧市街との連携強化 (案内看板等)
	賑わいの 水辺	漁師町の時代の賑わいは感じられ ない 水辺活用の組織は無い	<ul style="list-style-type: none"> ・水辺に賑わいを取り戻す商業施設の立 地誘導 ・水辺活用調整組織の整備 ・漁師町の生活を体験するフィールドミ ュージウム開催
関連事項	沿川に公衆トイレが無い (近接する施設にある)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用可能トイレ案内板設置 	

注) 緑：中期対応、黒：長期対応

(2)現状と課題

水門と東西線鉄橋を臨む風景は浦安市のシンボリックな景観として市民に愛されており、周辺には歴史観光資源が数多くあり、浦安駅から近い立地条件にも関わらず、以下のような問題点を抱え、その立地条件が活かされていない。

- ・沿川に街路樹等の植栽スペースが無く沿川の緑が少ない。
- ・両岸は歩道が無い歩車共存道路で通過する交通量が多い。
- ・街路灯はあるが景観への配慮は不十分。
- ・小段が老朽化し危険。
- ・小段へのアクセスが不便。
- ・旧江戸川の遊歩道へ接続する動線が無い。
- ・周囲に広がる歴史的市街地とのつながりが希薄。

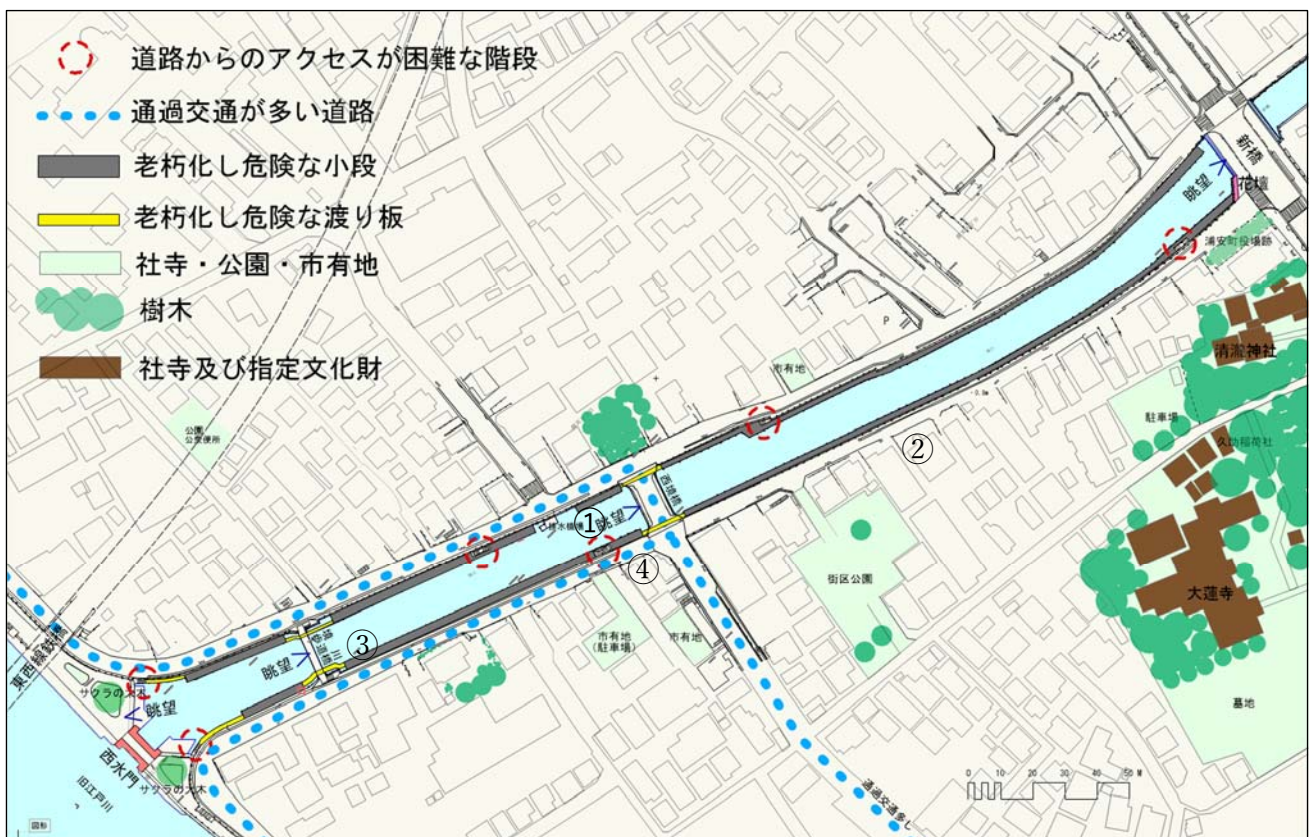


図 4.3 Aゾーン現状図



写真 4.1 ①水門と東西線鉄橋を臨む風景は浦安市のシンボリックな景観として市民に愛されている



写真 4.2

②道路沿いにパラペットがあり高さ数十 cm から 1 m 程度で、一部を除き転落防止は無い



写真 4.3

③川面には小段があるが、幅が狭く、転落防止対策が無いので危険である



写真 4.4

④小段への階段は道路側に段が無く上りづらいため、川へアクセスしにくい

(3)境川とまちへのアクセス

Aゾーンの河川空間と浦安駅・周辺の歴史的市街地・旧江戸川を繋げるため、下記に示すとおり、歩行者に配慮したバリアフリーのアクセスを確保する。

- ・歩行者動線に配慮して水辺アクセス箇所を再整備する。
- ・安全に歩ける小段を整備しアンダーパスで連続する。
- ・旧江戸川堤防上部の遊歩道と連結する。



図 4.4 Aゾーン 境川とまちへのアクセス

(4)整備方針

- ・沿川の道路は、舗装材の材質の変化や色彩の変化などで歩車共存型道路であることをドライバーが視覚的に認識しやすいように工夫すると共に、速度制限や時間規制の導入も検討する。
- ・水辺の小段は斜路で連続する安全で快適なユニバーサルデザインの歩行者空間として整備する。
- ・下記の利活用に備え、実演用資機材倉庫・トイレ・休憩所等の整備を検討する。

1) 水辺等の利活用方針

- ・歩車共存型道路や隣接するオープンスペースにおいては、沿川住民との協議し、時間を限定して、フリーマーケット・オープンカフェ等の開催を検討する。
- ・水面においては、水上レストランの立地や、和船の水上展示と操船体験、昔の漁村生活実演・体験、和船乗船体験等のイベント開催を促進する。
- ・沿川市街地においては、店舗立地誘導による賑わいづくりを促進する。(長期)

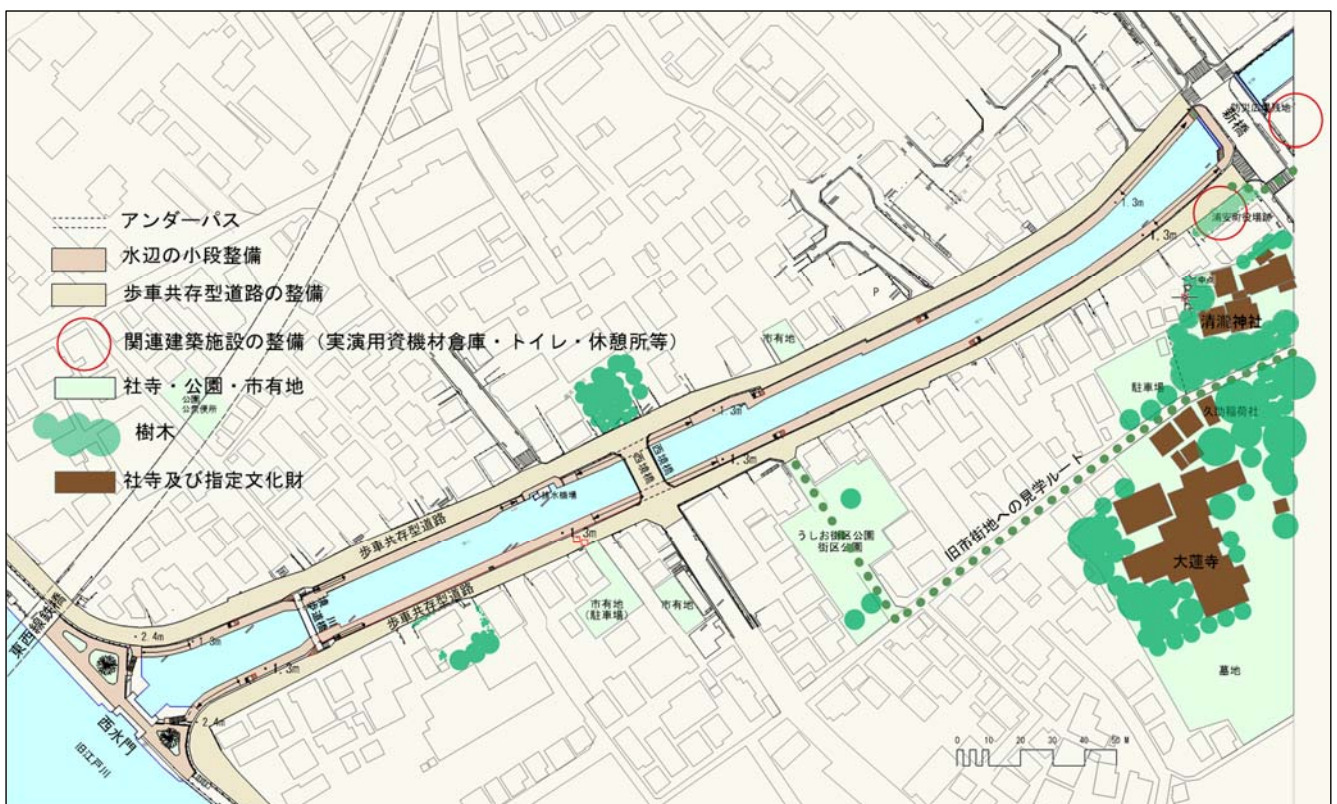
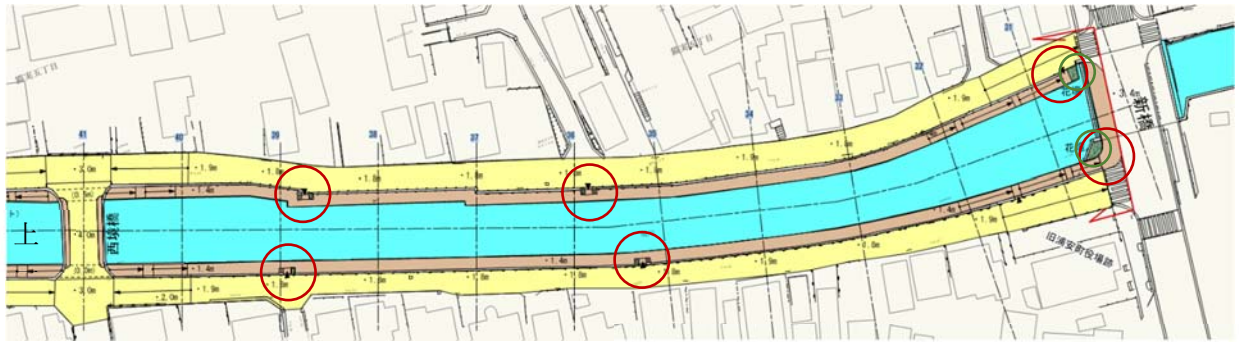
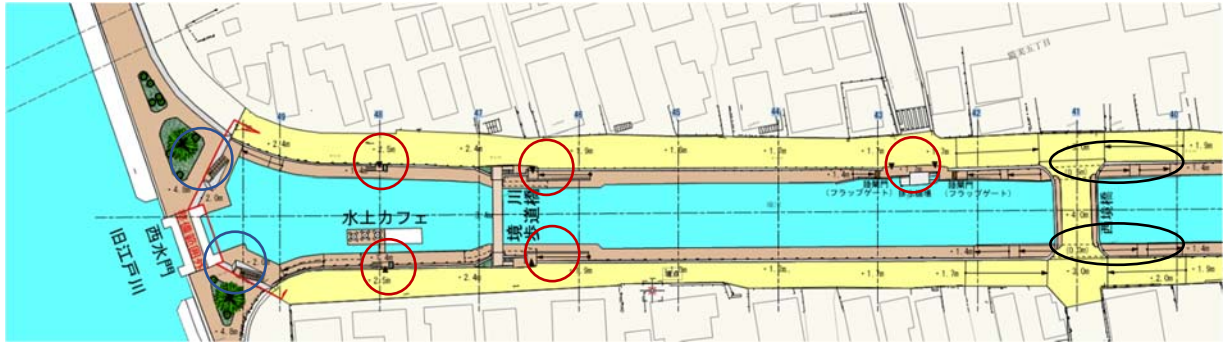


図 4.5 Aゾーン 整備方針図(案)



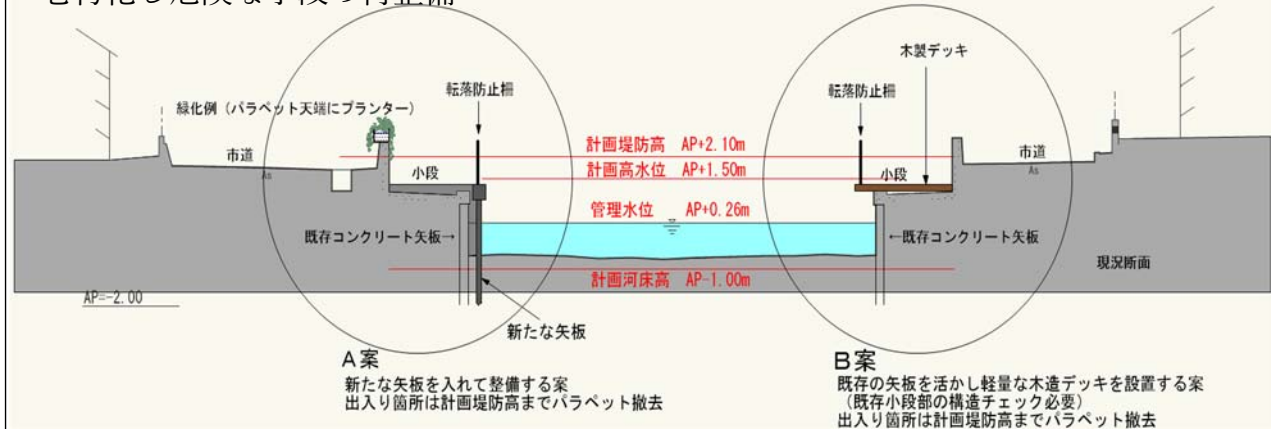
- 旧江戸川連絡階段
- 水辺アクセス
- 結節点の花壇
- 歩車共存道路（一般車道と異なる舗装）
- 小段（幅員 2.5m）
- 車椅子対応斜路
- アンダーパス



アンダーパス事例：東京都江戸川区（新川・新渡橋）

計画平面図（例）

老朽化し危険な小段の再整備



計画断面図（例）

図 4.6 Aゾーン計画横断面図（例）

中期対応



西水門付近の整備イメージ（例）（パラペット表面はコンクリートのまま）

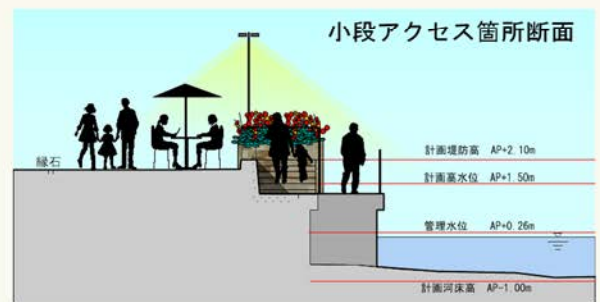
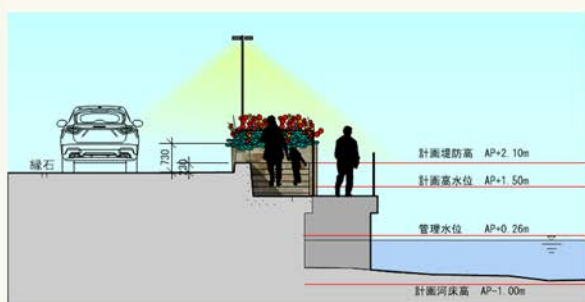
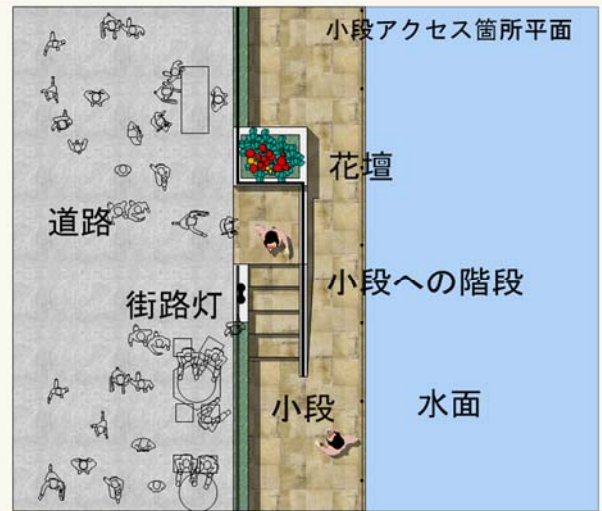
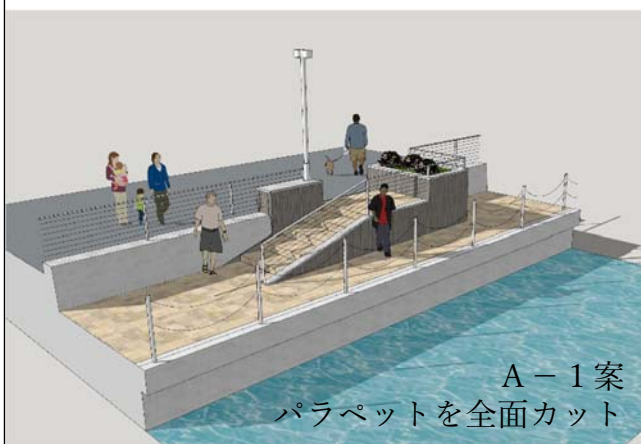


図 4.7 水辺アクセス箇所の平面・断面イメージ（例）

イベント時には、車両通行止めとしてオープンカフェやマルシェを開くことを検討。



計画横断図（例）

●階段部分

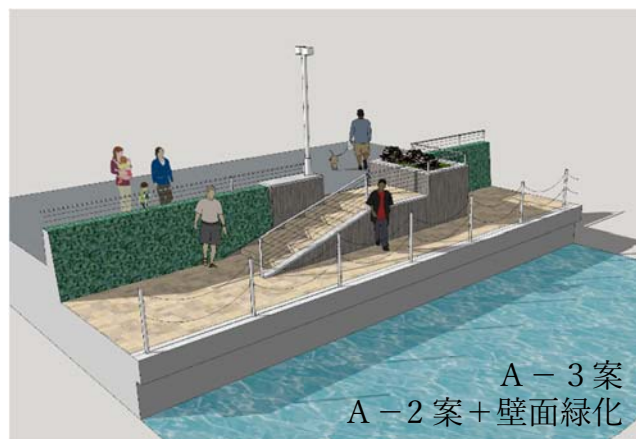
花壇で修景（住民管理を想定）

●パラペットの処理

A-1案：全面的にA.P.2.1mでカット

A-2案：階段部分のみA.P.2.1mでカット

A-3案：A-2案+パラペットの緑化^{※1}



※1：イタビカズラなどの低成長の植物で管理を容易にする。（右は、ブロック塀を覆うイタビカズラの例、年1回程度の刈込で成長をコントロールできるので管理は容易。ただし、成長が遅いので壁面を覆い尽くすのに年数を要する。）



図 4.8 水辺アクセス箇所の整備イメージ（例）

4.2.2 Bゾーンの整備方針

(1)現状と課題および整備方針一覧表

表 4.2 現状と課題および整備方針一覧表

全体整備方針		Bゾーンの主な現状と課題	ゾーン別整備方針
前提条件 A・B・C共通	水害対策	東西水門で水位安定化済み 水門・護岸は耐震化されていない 市街地の地盤が低く内水氾濫の危険性がある	<ul style="list-style-type: none"> 水門の耐震化 雨水排除ポンプの能力向上
	水質改善	近年は基準値クリア、悪臭があるとの住民からの改善要望	<ul style="list-style-type: none"> 水質の改善 (詳細調査、改善方策検討含む)
基本テーマ Bゾーンは整備中	緑のみち	沿川に街路樹等の植栽スペースが無い 河川管理用通路のみで道路がない箇所が多い	<ul style="list-style-type: none"> 沿川宅地や路地の緑化促進 安全な歩行者空間の拡充
	水のみち	水辺にアクセスできる箇所が少ない	<ul style="list-style-type: none"> 親水施設の拡充。(防災広場)
	歴史のみち	歴史的市街地とのつながりが希薄	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的景観を活かしたまちづくり 防災広場を歴史的市街地探訪の基地として活用 残されている古民家の保全活用方策の検討
	賑わいの水辺	漁師町の時代の賑わいは感じられない 水辺活用の組織は無い	<ul style="list-style-type: none"> 水辺に賑わいを取り戻す商業施設の立地誘導 漁師町の生活を体験するフィールドミュージアム開催(受付詰所倉庫等の設置)
関連事項	沿川に公衆トイレが無い (近接する施設にある)	<ul style="list-style-type: none"> 利用可能トイレ案内板設置 	

注) 緑：中期対応、黒：長期対応

(2)現状

- ・ Bゾーンの境川の大部分は修景工事完了。
- ・ 新橋周辺の防災広場予定地及びその周辺は修景工事中。
- ・ 防災広場予定地は、浦安駅に近く境川観光の集合場所に適した場所である。
- ・ 境川に面し道路に接しない建物の多くは、川に背を向けて建っている。
- ・ 境川沿いでは、消防活動や避難に資する防災道路整備の住民要望が多い。
- ・ 新橋～新中橋間には古民家等が比較的多く残されている。
- ・ 文化財指定の無い古民家については、今後のまちづくりで取り壊される可能性が高い。
- ・ 土地区画整理事業完了地区以外では密集市街地防災まちづくり方針に基づく整備が進められている。

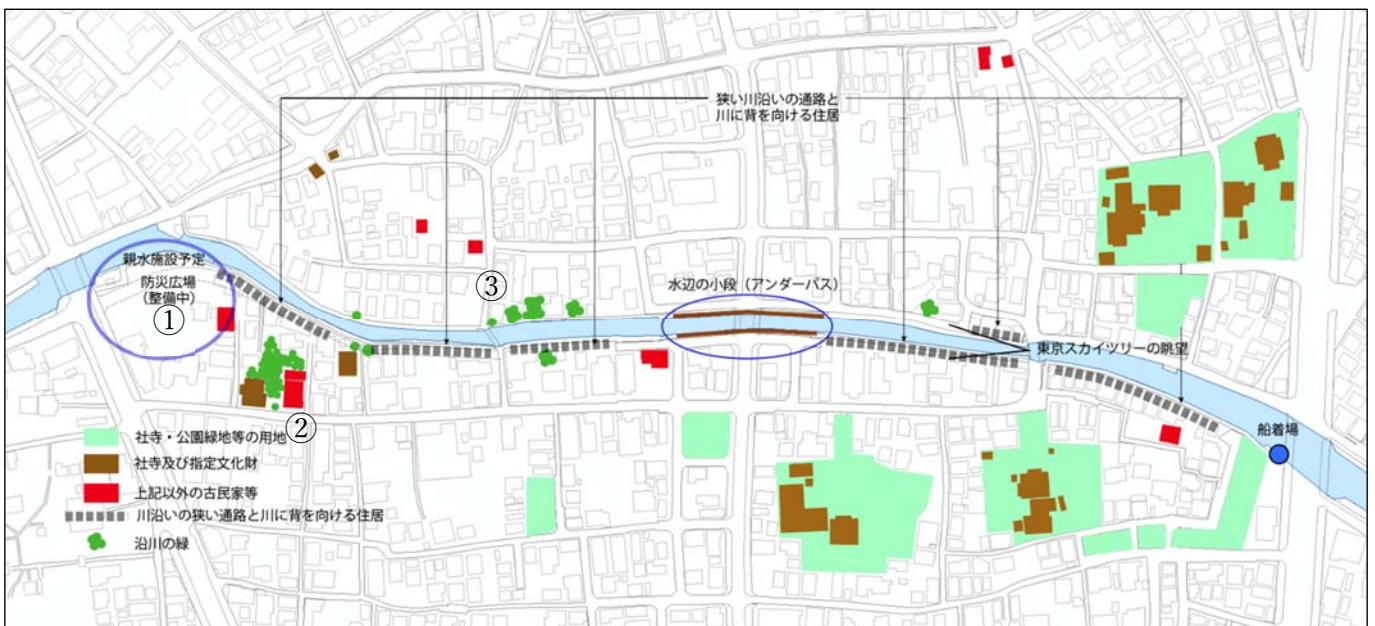


図 4.9 Bゾーン現状図

整備中の防災広場は浦安駅に近い好立地を活かして、境川利用者の集合場所として活用可能。



写真 4.5 ①整備中の防災広場予定地

左の建物は市指定文化財（旧宇田川家住宅）
右の建物は閉鎖した銭湯で保全活用の計画が
無い。



写真 4.6 ②左：市指定文化財（旧宇田川家住宅）右：閉鎖した銭湯

右の建物は古民家として調査対象となっ
たが、保全活用の計画は無い。隣接して空地が
あり、昔の井戸が残されている。



写真 4.7 ③右：古民家として調査対象（保全活用の計画は無し）
隣接の空地と昔の井戸

対策をしなければまちづくりの進展とともにいずれ消滅する古民家や周辺の空地を活用し、漁村時代の浦安の雰囲気再生して、市民の郷土史学習や観光振興に役立てることが望まれる。

(3)境川とまちへのアクセス

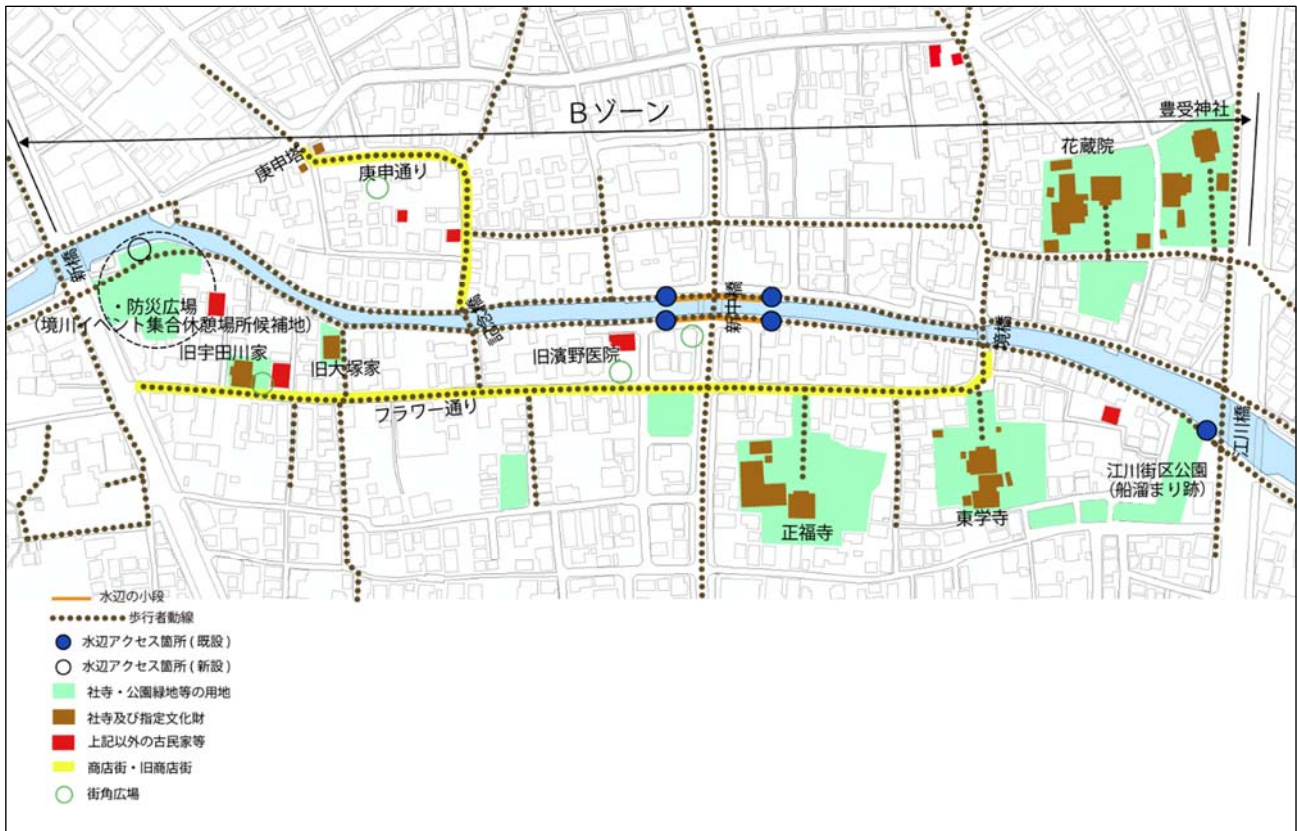


図 4.10 Bゾーン 境川とまちへのアクセス

(4)主な課題

1) 境川兩岸の緊急路兼散策路の整備

境川の修景整備は近年中に完了予定であるが、境川へのアクセス路となる管理用通路の多くは狭く、交差する橋とは階段で接続されている箇所もあり、災害時の緊急車両の進入ができないなどの問題を抱えており、対策を求める住民意見が多数出されている。

2) 境川イベント集合休憩場所の整備

フィールドミュージアム活動に必要な資材置き場やトイレなどの施設として古民家の再生と活用などを含め場所の確保が課題である。

3) A・Cゾーンと連携した利活用プログラムの開発

A・Cゾーンと連携した旧市街地の歴史学習イベントや境川を活用したフィールドミュージアム活動を促進する。

4.2.3 Cゾーンの整備方針

(1)現状と課題および整備方針一覧表

表 4-3 現状と課題および整備方針一覧表

全体整備方針		Cゾーンの主な現状と課題	ゾーン別整備方針
前提条件 A・B・C共通	水害対策	東西水門で水位安定化済み 水門・護岸は耐震化されていない 市街地の地盤が低く内水氾濫の危険性がある	<ul style="list-style-type: none"> ・水門の耐震化 ・雨水排除ポンプの能力向上
	水質改善	近年は基準値クリア、悪臭があると の住民からの改善要望	<ul style="list-style-type: none"> ・水質の改善 (詳細調査、改善方策検討含む)
基本テーマ Cゾーンは整備済み	緑のみち	沿川に街路樹等の植栽スペースが少ない	<ul style="list-style-type: none"> ・花壇の増設 (給水施設の整備、市民参加の促進)
	水のみち	親水施設への立ち入り制限がある	<ul style="list-style-type: none"> ・自己責任を含んだ親水施設の利用ルールづくり
	歴史のみち	周囲に広がる歴史的市街地とのつながりが希薄	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的旧市街との連携強化 (案内看板等)
	賑わいの水辺	春まつりのカフェテラス in 境川やカヌースラローム大会などイベント会場として、その期間は賑わいがある。	
関連事項	沿川に公衆トイレが無い (近接する施設にある)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用可能トイレ案内板設置 	

注) 緑：中期対応、黒：長期対応

(2)現状

Cゾーンは修景整備が完了しており優れた水辺景観^{※1}が形成され、市民の評価も高い。

※1【土木学会デザイン賞 2002年優秀賞】を受賞した。

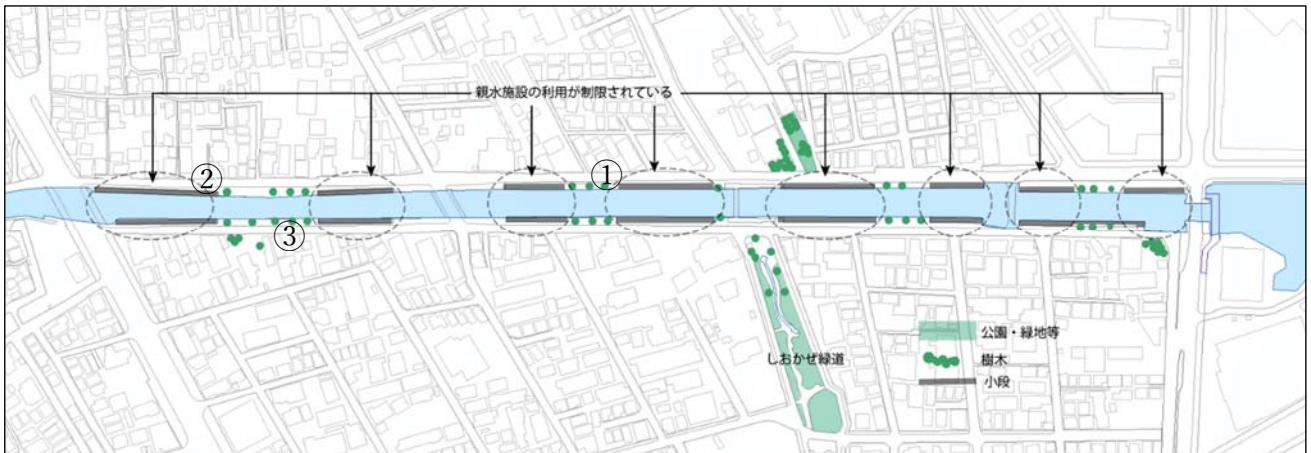


図 4.11 Cゾーン現状図

小広場にはベンチがあり、桜が植えられ、花のプランターが設置されている。

レンガで装飾された擁壁、視線を妨げない横棧の転落防止柵、小段部のボラードと鎖、街路灯など、優れたデザインで景観の向上に寄与している。

春まつりのカフェテラス in 境川やカヌースラローム大会など多様なイベントの場として利用されている。



写真 4.8 ①小広場



写真 4.9 ②レンガで装飾された擁壁



写真 4.10 ③春まつりのEボート体験

(3)境川とまちへのアクセス

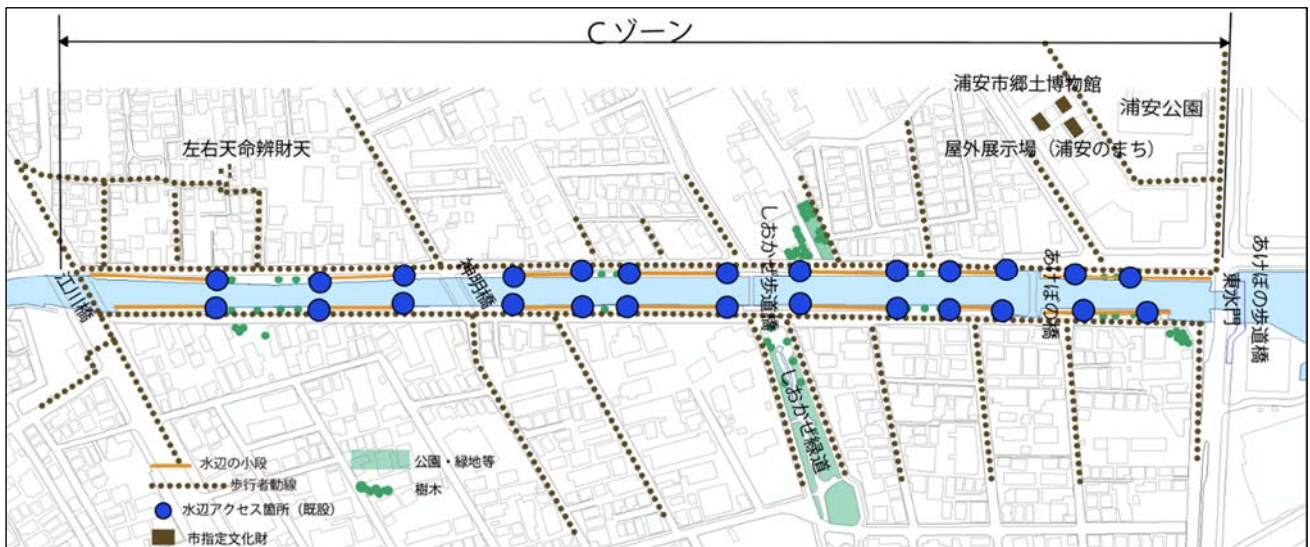


図 4.12 Cゾーン 境川とまちへのアクセス

(4)主な課題

1) 水辺の小段の自己責任を伴う利用の仕組み作り

水辺アクセス箇所は多数設置されているが、危険なため立ち入りが制限されている。自己責任を伴う利用の考えも取り入れ、立ち入りの拡大に向け利用する市民との調整が課題である。

2) A・Bゾーンと連携した利活用プログラムの開発

Cゾーンは優れた修景整備が行われ、既に多くのイベントの会場として利用されている。今後はこれをさらに発展させてゆくため、現状に止まらずA・Bゾーンと連携した旧市街地の歴史学習イベントや郷土博物館と連携し境川を活用したフィールドミュージアム活動など、新たな展開を促進することが課題である。

4.3 D1-1 ゾーン 市役所周辺エリア（賑わいの水辺）整備方針

4.3.1 整備テーマ ～ 境川を中心・水辺の賑わい ～

境川の東側の行政機能や福祉機能と、西側の公益サービスや商業の集積を一体化する中心的な立地を活かし水辺の賑わいの場を形成する。また境川の中でも特に川らしさを感じさせる場所であるという特徴を活かし、SUP・カヌーなどの水遊びや自然観察の場、川の知識を学ぶ場としての活用を促進する。

- ・河川管理用通路等の遊歩道化
未舗装河川管理用通路の遊歩道としての整備。
境川公園から境川排水機場内を貫通する遊歩道の整備。
- ・老朽化した親水護岸の再整備
市役所前の親水護岸の老朽化部分の補修。
ゾーン内を周遊する親水施設の整備。
- ・シビックセンター地区の一体化（バリアフリーに配慮した歩道者横断施設）
境川によるシビックセンター地区の東西分断の解消。
- ・川への眺望の確保（川面が望める管理用通路の遊歩道化、パラペットの撤去）
コンクリート壁（パラペット）によって遮られている川への眺望確保。
- ・賑わい拠点の創出（民間施設立地促進：カフェテラス、水上レストラン等）
境川の水辺をシビックセンター地区の賑わい拠点形成。
- ・係船施設の整理・秩序ある利用環境づくり

4.3.2 現状と課題および整備方針一覧表

表 4.4 現状と課題および整備方針一覧表

全体整備方針		D1-1 ゾーンの現状と課題	ゾーン別整備方針
前提条件	水害対策	高潮堤防整備済みだが、川への眺望障害 地盤沈下等で内水氾濫の危険性がある	<ul style="list-style-type: none"> 河口水門整備で高潮防御 河口水門による管理水位低下で雨水流下能力向上 護岸、水門、排水機場の耐震化
	水質改善	基準値クリア 沈船・投棄物の撤去	
基本テーマ	緑のみち	沿川の道路には、街路樹、歩道あり	
		シビックセンターを構成する境川両岸の分断 右岸河川管理用通路は境川排水機場で行止まり	<ul style="list-style-type: none"> 分断解消用歩行者横断施設新設 境川排水機場の行止まり解消 川面が望める管理用通路の遊歩道化
		パラペットが歩道部から川への眺望を遮る	<ul style="list-style-type: none"> パラペットの撤去
		フェンスで周辺と遮断された緑豊かな境川公園 歩行者と自転車が輻輳するあけぼの歩道橋 防音壁が湾岸道路の歩道からの眺望を遮る	<ul style="list-style-type: none"> 管理用通路と一体化した空間整備 歩行者と自転車を分離し安全性・快適性の向上 道路橋防音壁に眺望用の窓の設置 歩行者にとって心地よい安全安心な街路灯の整備
水のみち	親水護岸が1か所あるが、老朽化している 右岸には水辺に小段が無い 既設係留施設は廃船対策等の運営課題あり	<ul style="list-style-type: none"> 老朽親水護岸の再整備 右岸の水辺の小段の整備 水辺の小段への階段と斜路の整備 係留設備の有効活用 	
歴史のみち			
賑わいの水辺	水辺に面した賑わい施設は無い 水辺活用の組織は無い	<ul style="list-style-type: none"> 賑わい拠点の創出（右岸遊歩道商業施設誘導） 水辺活用調整組織の整備（係留施設、オープンカフェ、舟運、イベント等の運営） 	
(その他)	沿川に公衆トイレが無い (近接する施設にある)	<ul style="list-style-type: none"> 利用可能トイレ案内板設置 	

注) 赤：短期対応、緑：中期対応、黒：長期対応

4.3.3 現状と課題

広い水面を持ちながら直線的で単調になりがちな D1・D2 ゾーンの中で、カーブやワンド状の形状の変化のある水面を持ち、砂浜や様々な形式の護岸があり、境川公園の松並木や排水機場の緑や、水面に映る市庁舎の建築など魅力的な景観要素が集まっているが、左岸側からはパラペットで視界が遮られ、右岸側は管理用通路が通り抜けできず、人々から川面の眺望を楽しむ機会を奪っている。

⑨⑩左岸側の歩道からは背の高いパラペットで遮られ川表が見えない。



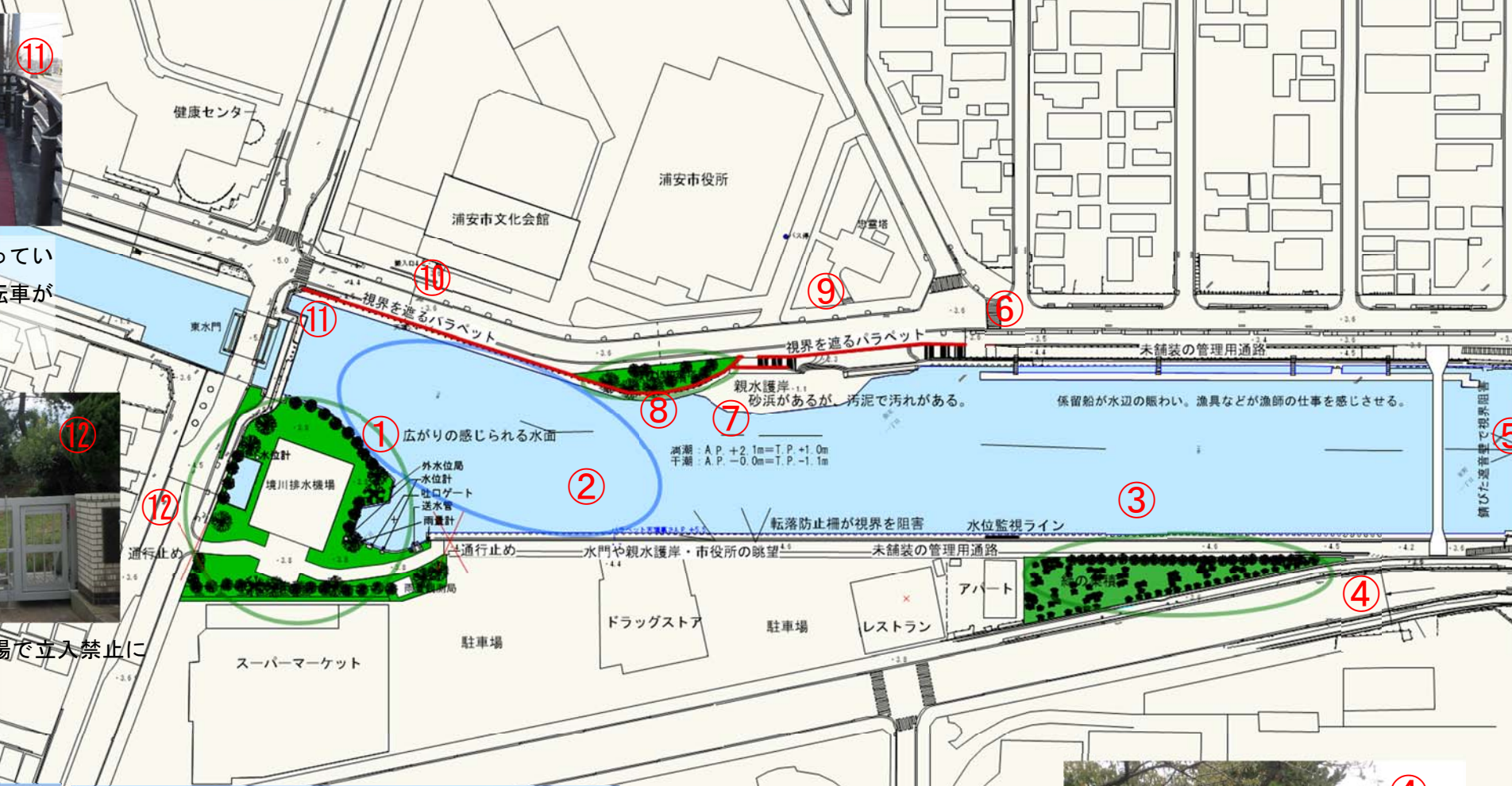
⑧境川の周辺を彩る豊かな緑の集積。



⑦修景用板張りが老朽化で撤去され鋼矢板がむき出しの親水護岸。砂浜が水辺を身近に感じさせる。



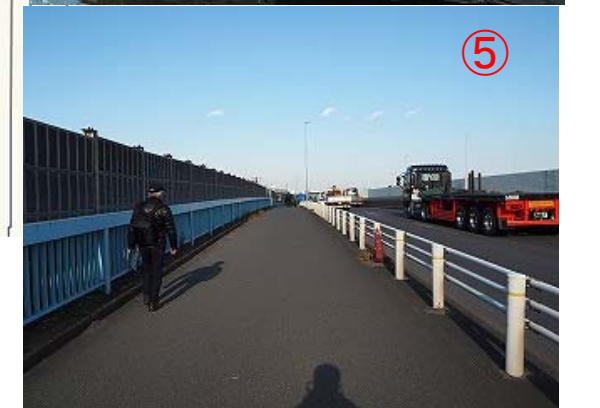
⑪交差点近くのクランクになっている歩道橋。多くの歩行者と自転車が通り危険との声がある。



⑥左岸側の管理用通路からは川表が見渡せるが砂利敷きで転落防止柵も無く利用者は少ない。



⑫管理用通路は、境川排水機場で立入禁止になっている。



①境川の周辺を彩る豊かな緑の集積。



②気持ち良い広がりを感じさせる水面。この景観が楽しめる場所は行き止まりで訪れる人は少ない。



③境川公園の見事な松並木



④フェンスで囲まれた境川公園、右の管理用通路とも左の歩道とも断絶して、利用者は少ない。

⑤国道 357 号線の境川橋上の遮音壁により、川表が見えない。

図 4.13 D1-1 ゾーン現状図

4.3.4 境川とまちへのアクセス

左右岸の市街地は市の中心的な公共共益施設が集中し、店舗も集中して、シビックセンターを形成している。一方、現在の境川は背の高いパラペットで取り囲まれ、右岸側は排水機場が立入禁止のため川沿いを通行することもできないため、単にシビックセンターを分断するだけのもとなっている。この状況を逆転させ、境川へのアクセス性を改善しシビックセンター地区の中心となる賑わいと憩いの空間形成を図るため、下図のような動線の整備を行うものとする。

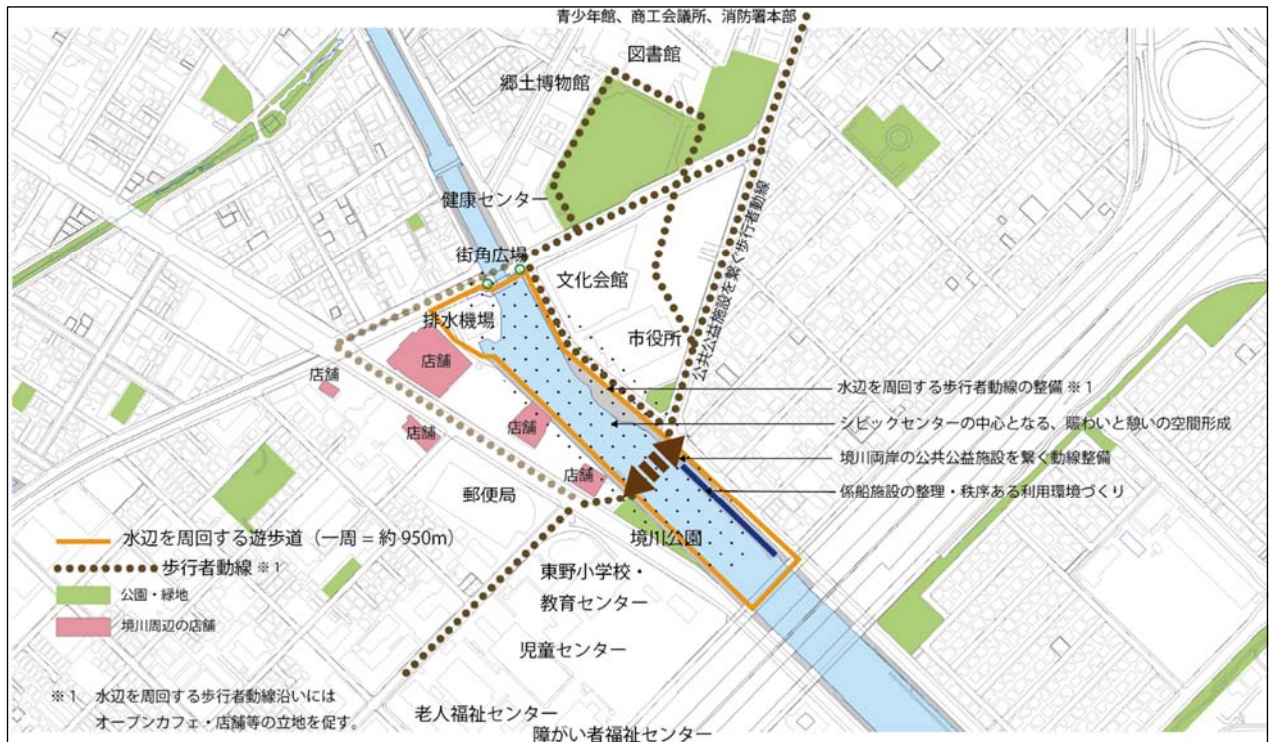


図 4.14 D1-1 ゾーン 境川とまちへのアクセス

4.3.5 整備計画（案）

(1) D1-1 ゾーン整備計画（案）

①整備計画（短期対応）

- ・境川公園、歩道、管理用通路、境川排水機場の一体整備
- ・防音壁塗装と眺望用窓設置
：国事業要望
- ・河床の浚渫と砂浜の浄化：県事業要望
- ・親水護岸の補修（鋼矢板修景等）
：県事業要望



②将来構想（中期対応）

- ・文化会館前の盛土による眺望確保
- ・あけぼの歩道橋改修
- ・川面を眺望できる歩道整備
- ・歩行者横断施設
- ・親水施設整備（小段）
- ・沿川への店舗立地誘導による賑わいづくり（長期対応）
- ・パラペット撤去による眺望確保（水門完成後）

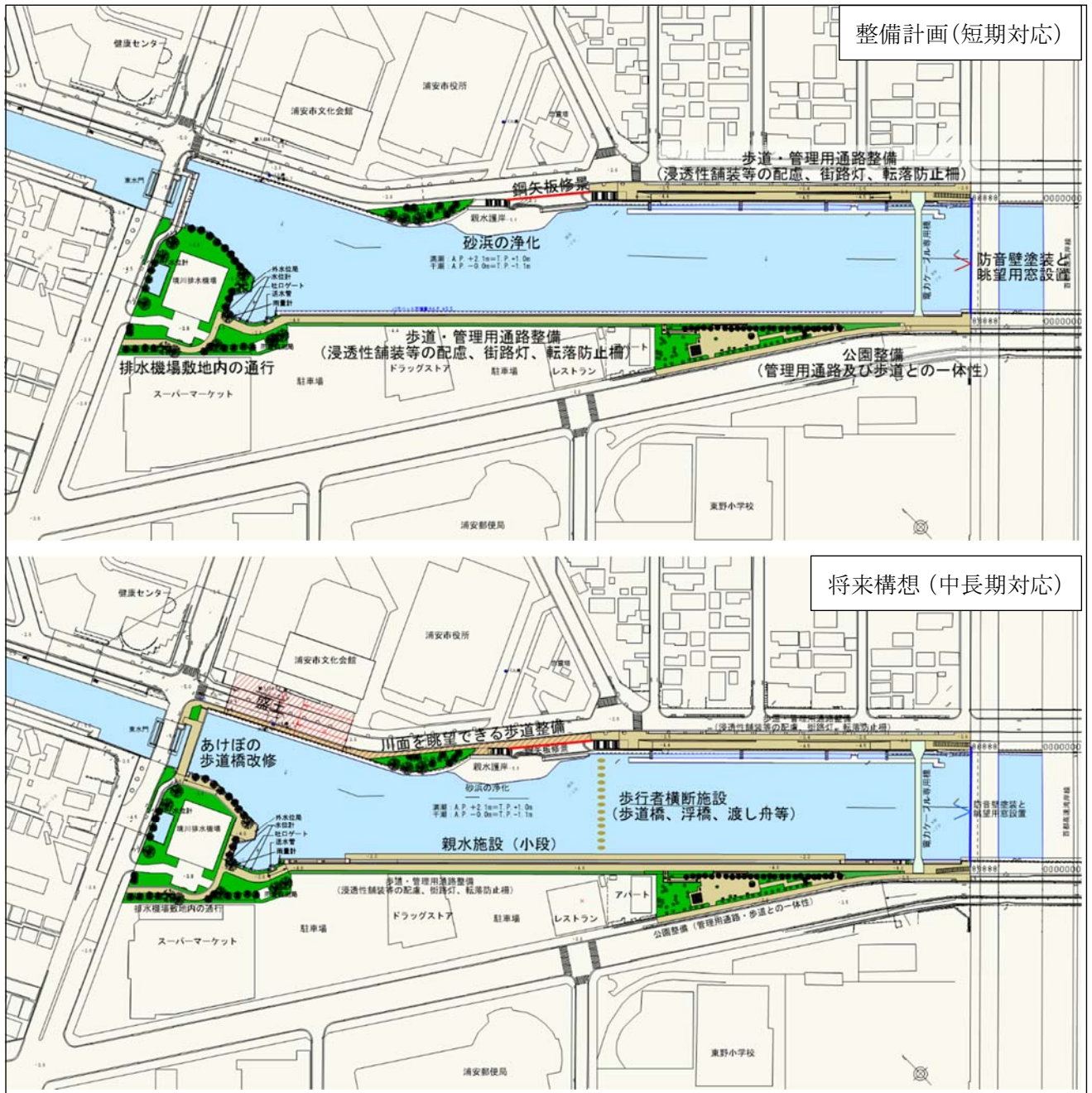
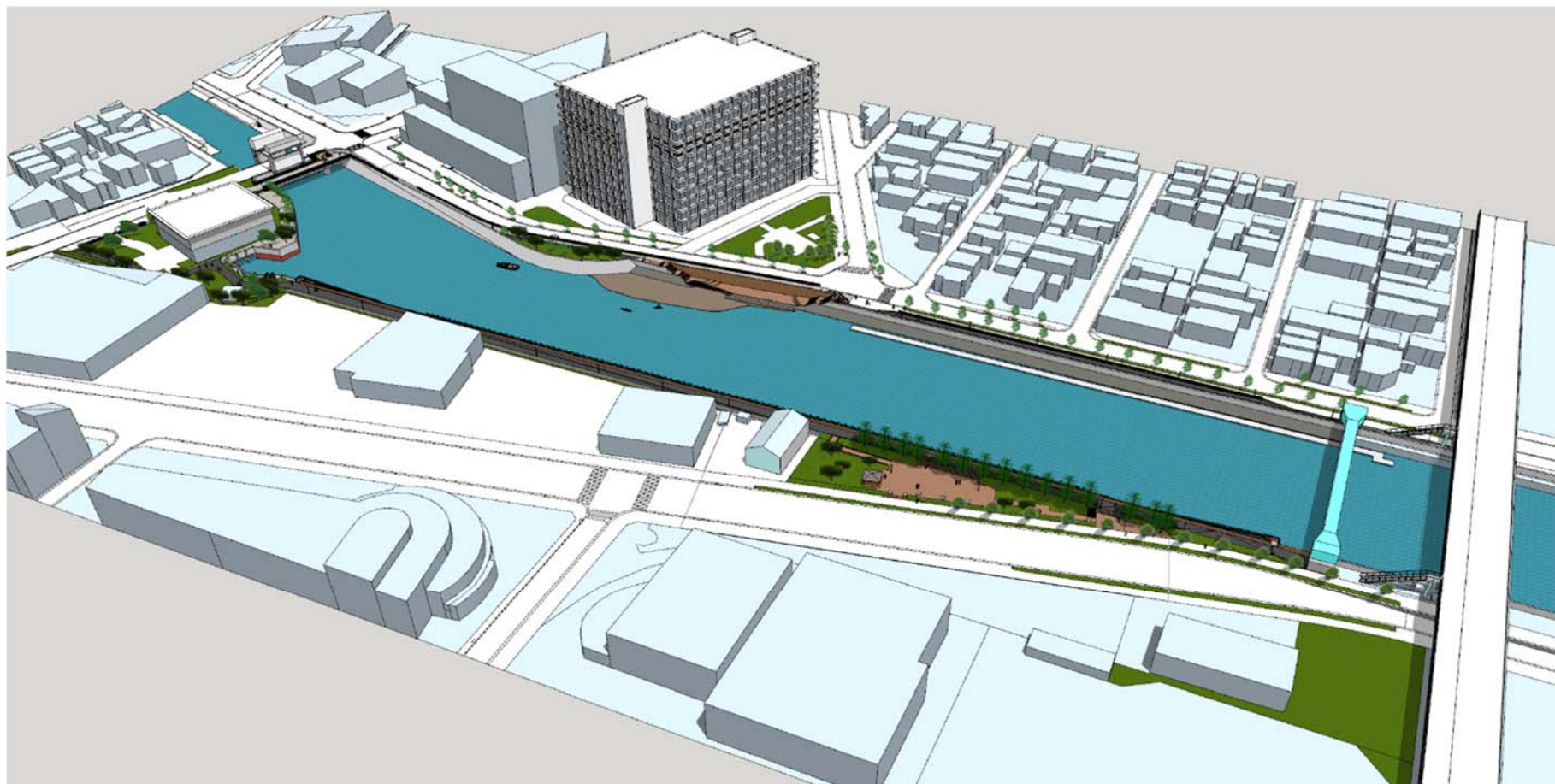


図 4.15 整備計画図および将来構想図（案）



図 4.16 計画横断面図 (例)

横断面については、上記のような案があるが本計画案では、概ね現況断面を維持することを前提とする。ただし、河口水門がある場合は管理用通路の切り下げで、水辺へのアクセス性は良くすることができる。なお、横断の変更を行う場合は、流下断面に与える影響などの検討が必要となる。



短期対応箇所の路面（公園、親水護岸等）

短期対応箇所の路面（管理用通路等）

中期対応箇所の路面（歩道橋、歩道の一部等）

注）この図では、短期対応箇所と中期対応箇所を区別するため、路面の色を変えて表示しています。

図 4.17 整備全体鳥瞰図（案）

(2) 境川公園と管理用通路の一体的整備（例）

- ・境川公園は、主に休息の場としての利用を基本に整備する。
- ・対岸から見える松並木を保全し、他の樹木は一部撤去して日当たりの良い広場を設ける。
- ・管理用通路と公園を一体化するため、既設フェンスを撤去し段差部は階段や緩傾斜法面とする。
- ・管理用通路は、境川を眺望する遊歩道として、パラペットの修景・転落防止柵設置・小段設置・街路灯設置を行う。
- ・公園には、車や自転車の進入防止用ボラード設置と公園灯の設置を行う。

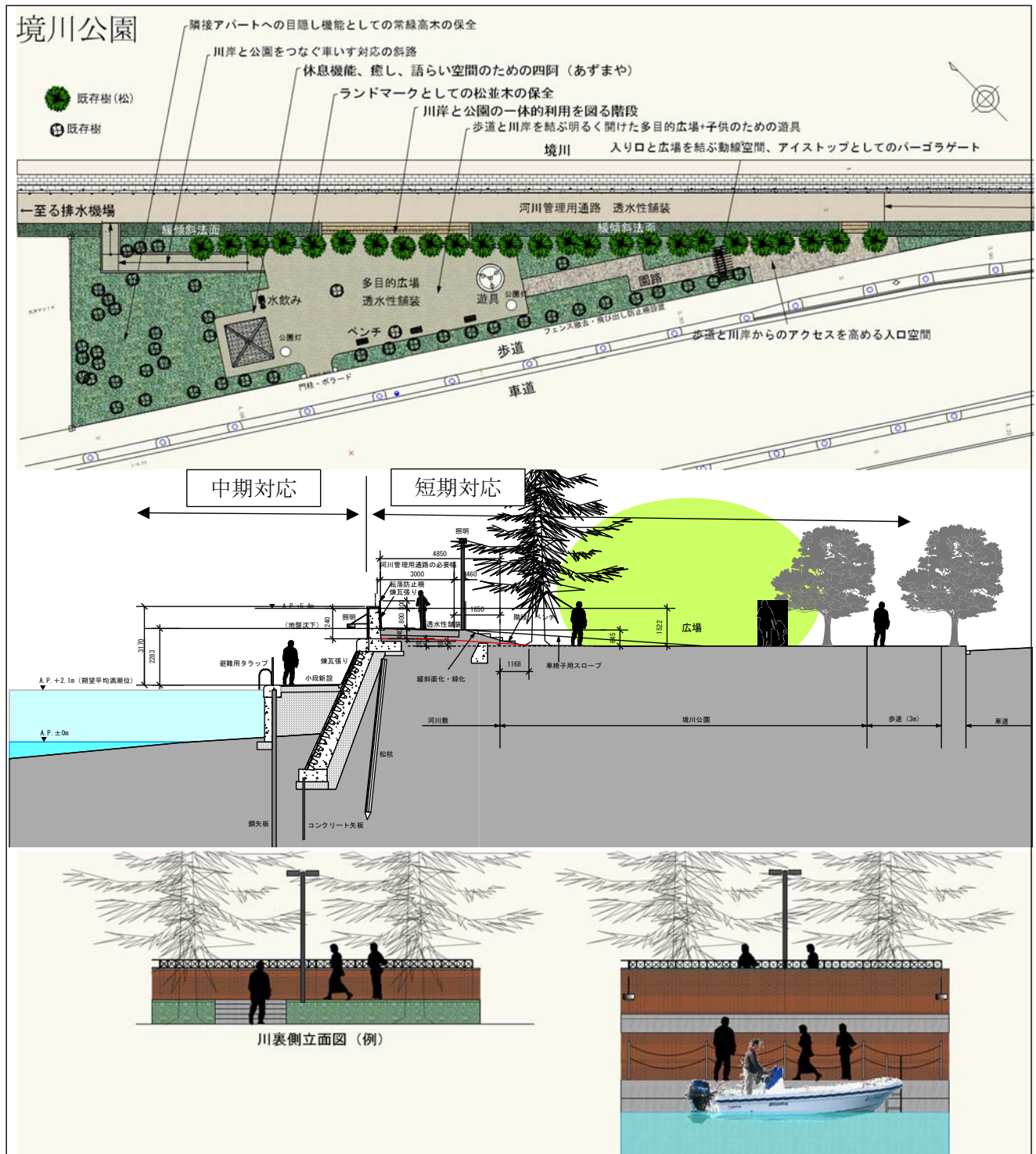


図 4.18 境川公園と管理用通路の一体的整備（例）

(3) 境川公園の整備と管理用通路の遊歩道化

- ・境川公園と管理用通路の一体化（短期対応）
- ・管理用通路から斜路で繋がる小段の新設（中期対応）



図 4.19 境川公園・右岸管理用通路・小段の整備（例）

- （短期対応）
- ・既設フェンス撤去
 - ・段差部の緩勾配緑化＋階段
 - ・転落防止柵
 - ・公園灯
 - ・自転車侵入防止柵



図 4.20 南側出入口部分の整備（例）



図 4.21 正面出入口部分の整備（例）

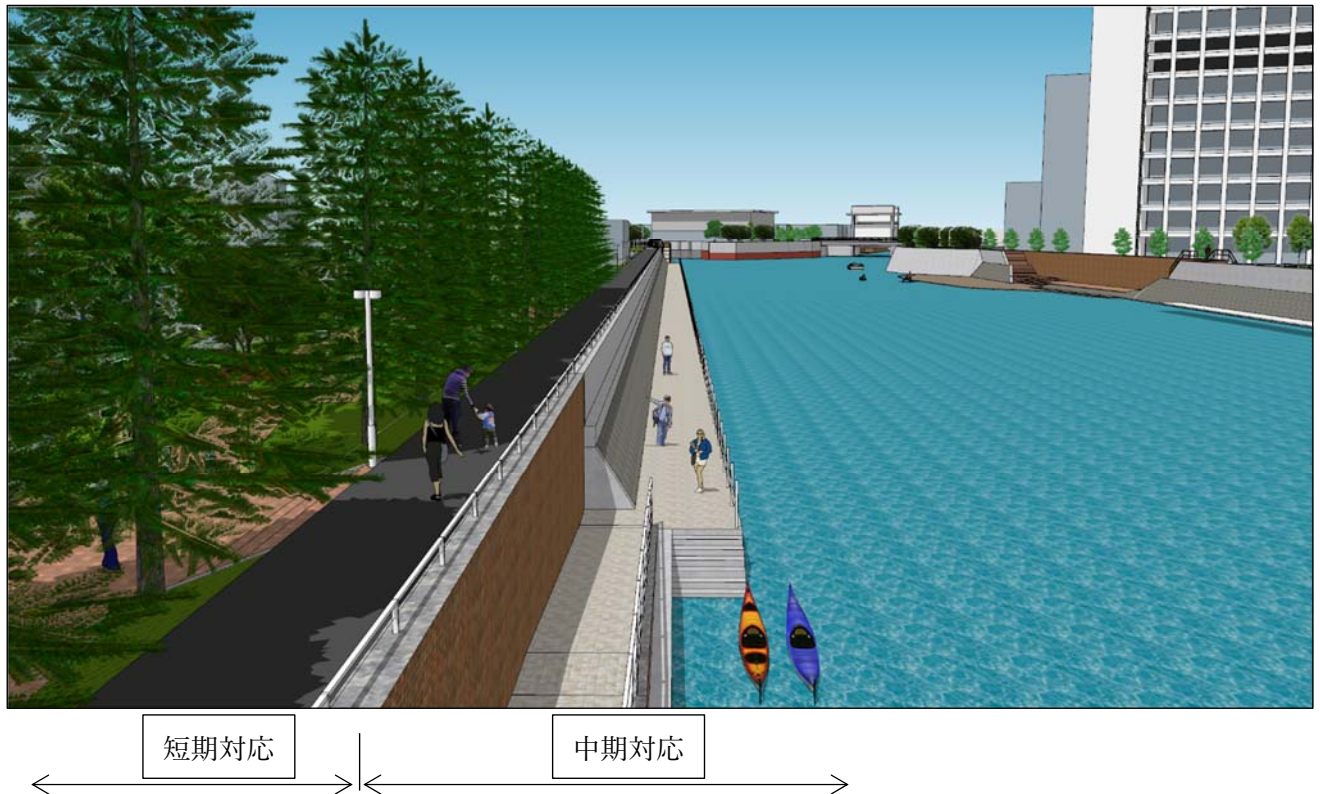


図 4.22 境川公園と管理用通路の一体的整備（例）

- ・管理用通路を遊歩道として開放（短期対応）
- ・小段を設置、管理用通路から斜路で連結（中期対応）

(4) 境川排水機場内通路の開放（例）

- ① 短期整備計画案：当面、境川排水機場敷地南側を、一般の通行に開放する。
- ② 中期整備計画案：境川の水面を望む遊歩道の設置を検討する。

※敷地内の遊歩道については、今後、河川管理者と協議に基づき、使いやすい位置での設置を検討する。

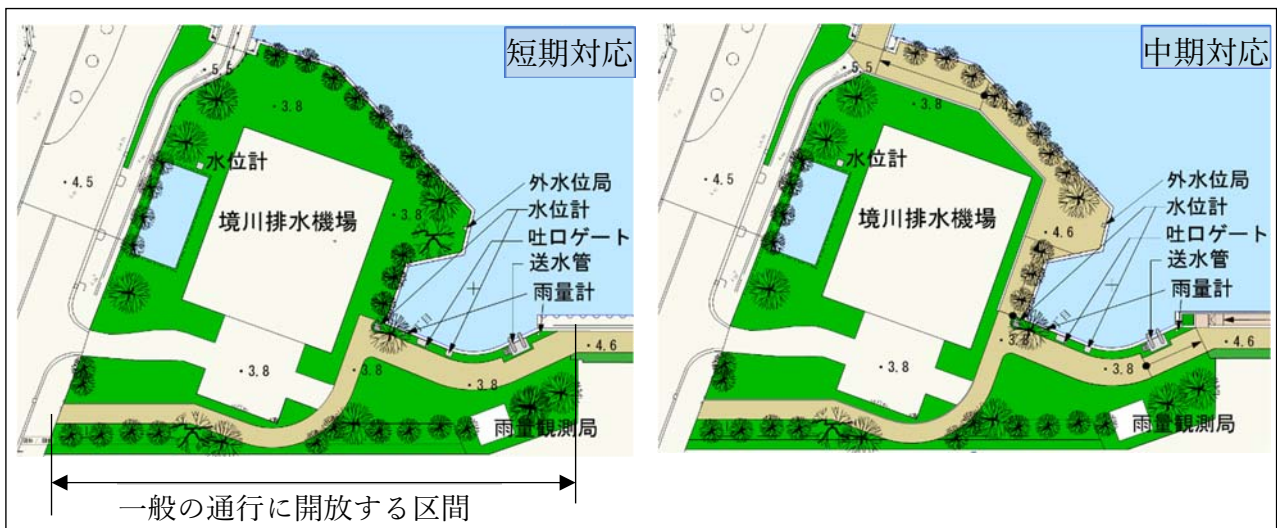


図 4.23 境川排水機場内の遊歩道全景
（水害から街を守っている施設について学ぶ見学コース）

- ・内側遊歩道（短期対応）、川側遊歩道（中期対応）



図 4.24 境川排水機場の遊歩道整備鳥瞰図

(5) あけぼの歩道橋改修と歩道の嵩上げ整備（例）

- ・あけぼの歩道橋の改修（中期対応）

通行幅員の拡大
街角広場新設
転落防止柵改修等
歩行者と自転車が安全快適
に通行できるように整備す
る。

※河川管理者と構造上の
耐久性等の協議を含め、
橋梁の長寿命化と併せ検討
する。



- ・歩道の嵩上げ整備（中期対応）

左岸歩道部の嵩上げに
よる眺望確保



図 4.25 D1-1 ゾーン 左岸管理用通路の整備（例）

(6) 左岸管理用通路の整備（例）

左岸管理用通路整備イメージ（管理用通路を川が見える遊歩道として整備）

- ・透水性舗装、レンガ擁壁、植栽、転落防止柵、街路灯整備（中期対応）

- ・管理用通路を遊歩道として開放（短期対応）

管理用通路からは川が眺望できる。



図 4.26 左岸管理用通路の整備（例）

(7) 境川兩岸を繋ぐ動線整備（例）（中期対応）

①目的

散策に適した 1km 未満程度の延長で川岸を周遊できる遊歩道の整備とともに、境川左岸の市役所・文化会館等と、右岸の総合福祉センター・東野地区複合福祉施設等を繋ぐ、バリアフリーな歩行動線を整備する。その際、境川を横断する箇所については、歩道橋、浮橋、渡し船（チェーンフェリー）等の横断方法がある。

②横断方法の選択

以下に示す事項を比較検討して、今後の事業化に当たって適切な方法を選択する。

- ・高齢者や障がい者等が安全快適に移動できる、船舶等の水上移動を妨げない。
- ・広々とした水面を視覚的に分断しない、楽しみで利用したくなるような話題性がある。
- ・潮の干満に対応できる、建設コストが安い、維持コストが安い。

③浮橋の例

カンボジア・アンコールワット
アンコールワットにかかる西参道の
橋が修復されている間、代わりの橋
として浮遊橋が使用される。

この一時的な橋は、一度に 400
トン以上、およそ 6400 人が乗って
も支えることができる」と述べてお
り、浮遊橋はプラスチック製のエア
バッグで作られている。



写真 4.11

資料 : Cambodia Business Partners <http://business-partners.asia/cambodia/>

東京都・奥多摩湖

ポリエチレン・発泡スチロール
製の浮きを使用。歩くと揺れる。



写真 4.12 発泡スチロール製の浮き橋（東京都・奥多摩湖）

④チェーンフェリーの例

イギリス ストラトフォード・アポン・エイボンチェーンフェリー（ハンドルを回して、水底に沈んでるチェーンを手繰り寄せることでフェリーは移動する）



写真 4.13 イギリス

ストラトフォード・アポン・エイボンチェーンフェリー

アメリカ ミシガン州 ソーガッタ
（ミシガン湖の近く）
のチェーンフェリー



写真 4.14 アメリカ

ミシガン州ソーガッタ（ミシガン湖の近く）・チェーンフェリー

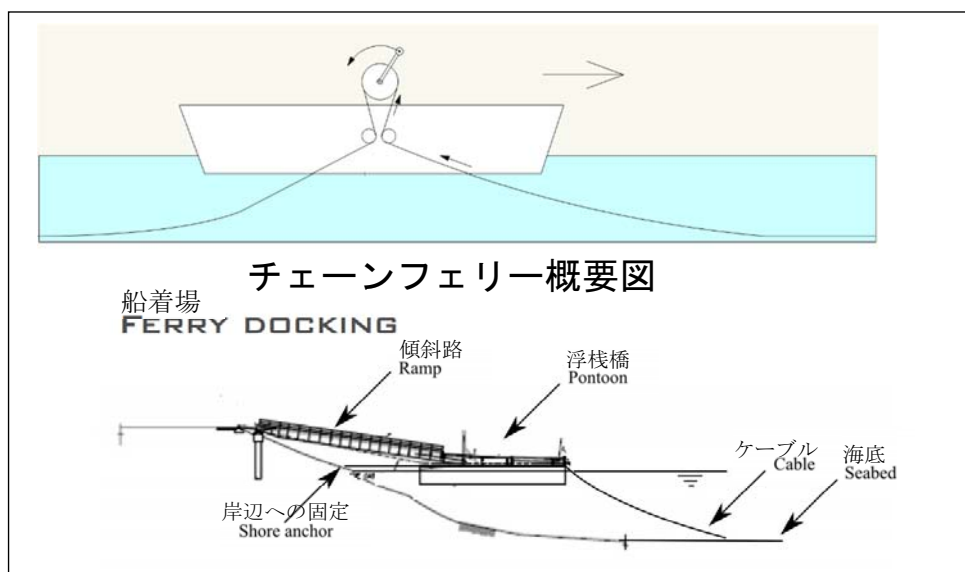


図 4.27 チェーンフェリー概要図

(8) 境川兩岸を繋ぐ動線整備に関わる斜路等の検討

・歩道橋の場合

水面を見渡す景観の分断要素となる。景観の分断をできるだけ避けるために、歩道橋を下流部に配置すると兩岸の公共公益施設間の移動距離が長くなる。歩道橋の下部を船舶が通行する際のクリアランスが必要である。

この図では、満潮時のクリアランス 2.4m と低く設定しているが、クリアランスを大きくすると斜路が長くなる。

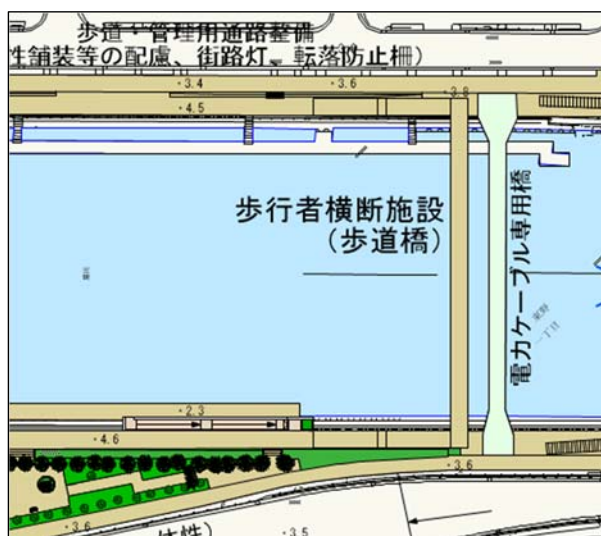


図 4.28 歩道橋の場合

・浮橋の場合

景観を損なう度合いは少ない。歩道部から水面までの斜路が必要になる。浮橋で水面が分断され、SUP やカヤック等で水面利用する際には支障となる。また、船舶等の航行ができないことから、漁港区域廃止等の検討が必要である。

設置例が少ないので話題性がある。



図 4.29 浮橋の場合

・チェーンフェリーの場合

景観を損なう度合いは少ない。歩道部から水面までの斜路が必要になる。水面の分断がなく、SUP やカヤック等で水面利用する支障とならない。設置例が少ないので話題性がある。



図 4.30 チェーンフェリーの場合

(9) 水面の利用

小段へのアクセス用斜路や水面へのアクセス用階段等を整備し水面利用を容易にして、SUP、カヤック等の水上スポーツでの水面利用を促進する。

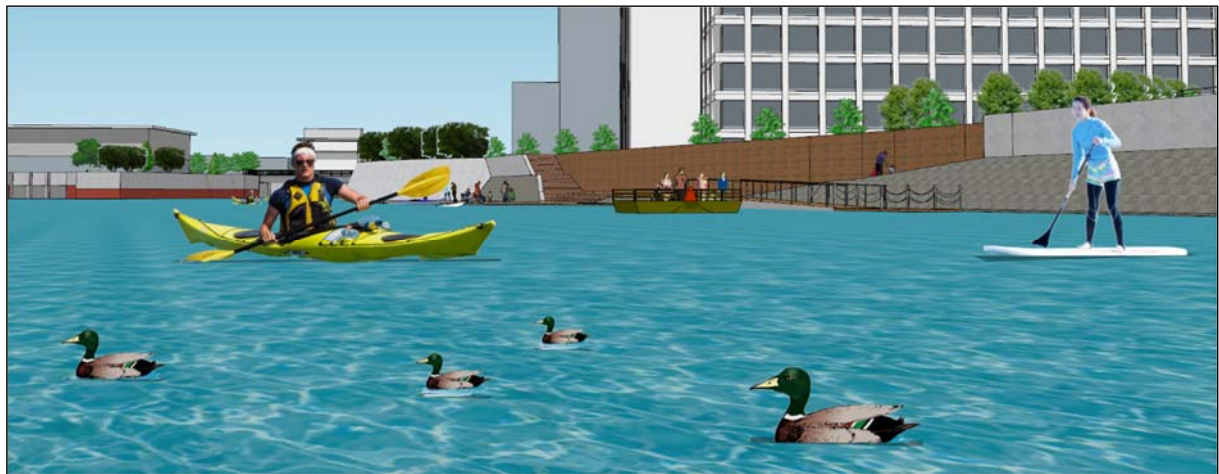


図 4.31 水上スポーツ（例）

水上レストランなど、水辺の賑わい施設の立地を促進する。



図 4.32 水上レストラン（例）

4.4 D1-2 ゾーン中町エリア（住まいの水辺）整備方針

4.4.1 整備方針 ～ 沿川住民の憩いの場となる緑豊かな水辺 ～

沿川の土地利用は住宅地が大半で、学校・病院等も立地していることを踏まえ、“住まいの水辺”をテーマに、沿川住民の憩いの場となる緑豊かな水辺づくりを目指して、散策、ジョギング、休息など日常生活のうるおいを高める水辺づくりを行う。

- ・河川への眺望の確保

盛土されている河川管理用通路を遊歩道として整備し、河川への眺望を確保する。

河口水門整備後は、河川への眺望を損なうパラペットを撤去し、市街地との一体性を高める。

- ・境川ネットワークの充実

境川ネットワークの一部として、緑豊かで潤いと安らぎのある散策路・自転車道を整備する。

- ・沿川住民や学校の生徒達が育てる花壇

地域住民や沿川にある学校の生徒達が世話する花壇を設置する。

- ・親水性の向上

親水性を高めるため、親水施設を設置し、川へのアクセス向上のための斜路・階段を整備する。

- ・係船施設の整理、秩序ある利用環境づくり

4.4.2 現状と課題および整備方針一覧表

表 4.5 現状と課題および整備方針一覧表

全体整備方針		D1-2 ゾーンの現状と課題	ゾーン別整備方針
前提条件	水害対策	高潮堤防整備済みだが、川への眺望障害 地盤沈下等で内水氾濫の危険性がある	<ul style="list-style-type: none"> ・河口水門整備で高潮防御 ・河口水門による管理水位低下で雨水流下能力向上 ・護岸の耐震化
	水質改善	基準値クリア	
基本テーマ	緑のみち	沿川の道路には、街路樹、歩道あり 河川管理用通路は一部未舗装 パラペットで川への眺望が遮られている コンクリート護岸で河川部の緑が少ない 沿川住民や学校の生徒達が育てる花壇がある 街路灯は美観への配慮が不足。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理用通路の遊歩道化 ・パラペットの撤去 ・護岸を緑化検討 ・花壇の保全と整備 ・歩行者にとって心地よい安全安心な街路灯の整備
	水のみち	親水施設は無い (水辺に降りられる消防用水利2か所のみ) 公共棧橋の今後の運営が課題	<ul style="list-style-type: none"> ・親水施設の整備 ・親水施設アクセス路整 ・公共棧橋のあり方検討
	歴史のみち		
	賑わいの水辺	水辺に面した賑わい施設は無い 水辺活用の組織は無い	<ul style="list-style-type: none"> ・水辺活用の仕組み作り ・水辺活用調整組織の整備(花壇の管理等)
(その他)	沿川に公衆トイレが無い (近接する公園にある)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用可能トイレ案内板設置 	

注) 赤：短期対応、緑：中期対応、黒：長期対応

4.4.3 現状と課題

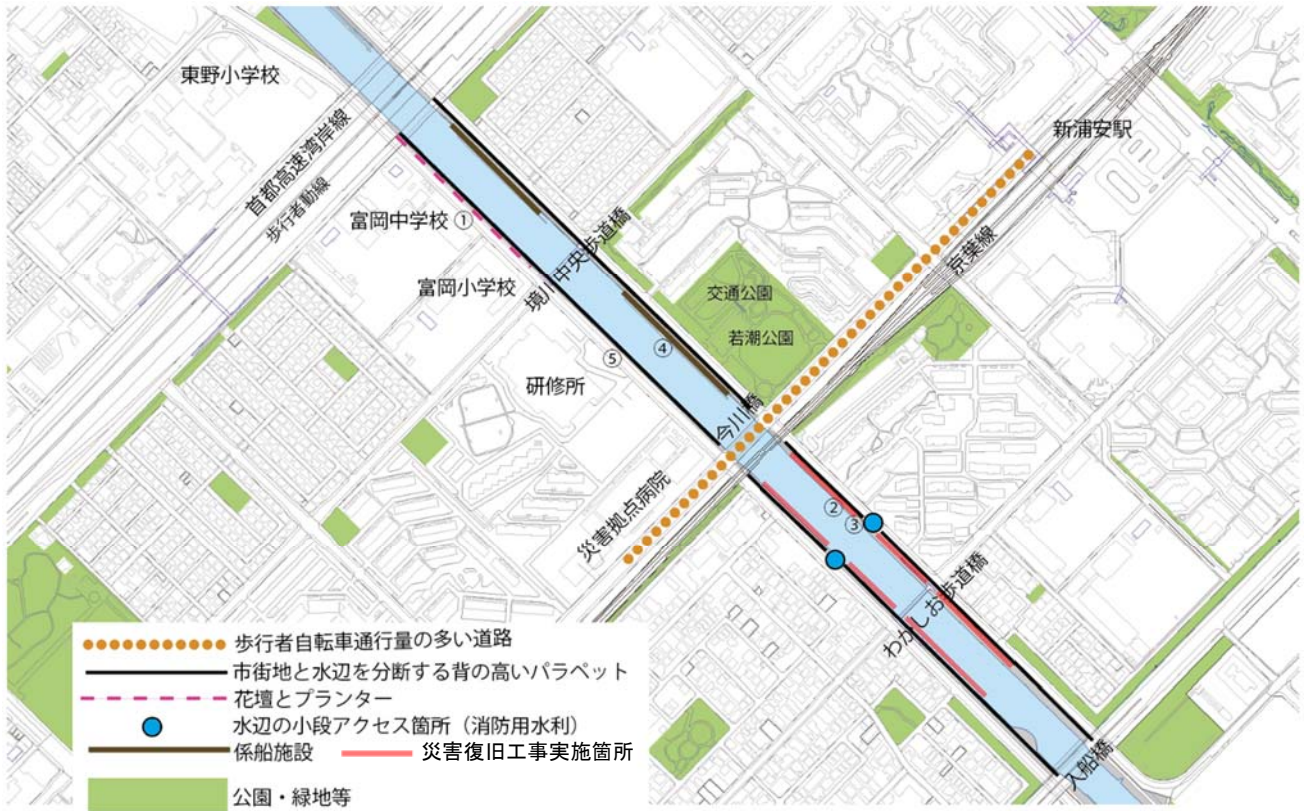


図 4.33 D1-2 ゾーン現状図



写真 4.15 ①富岡小学校・中学校前の歩道
生徒によって手入れされている花壇



写真 4.16 ②東日本大震災後、災害復旧工事実施箇所



写真 4.17 ③消防用水利として整備された
水辺アクセス箇所。



写真 4.18 ④公共棧橋
(存続を含め今後のあり方を検討中)



写真 4.19 ⑤歩道部

4.4.4 境川とまちへのアクセス

境川の両岸は比較的交通量の多い道路で、道路横断可能な箇所は信号交差点である中央歩道橋、今川橋、わかしお歩道橋の3箇所に限られている。これらの場所には街角広場や花壇などを設置し、市街地からアクセスする人々を迎え入れる修景整備を行う。

境川の水辺アクセスのために湾岸道路、今川橋、入船橋付近にバリアフリーのアクセス路を整備する。

D1-2ゾーンには小段が無く、水辺に佇むスペースが少ないため、小段の設置を検討する。その際には、護岸補強の必要性や水辺利用のニーズを把握し、連続した小段とするか、水辺を楽しむための島状の水辺広場等がふさわしいかを検討する。



図 4.34 D1-2ゾーン 境川とまちへのアクセス

4.4.5 整備方針

- ・河口水門整備前（整備後はパラペット撤去）

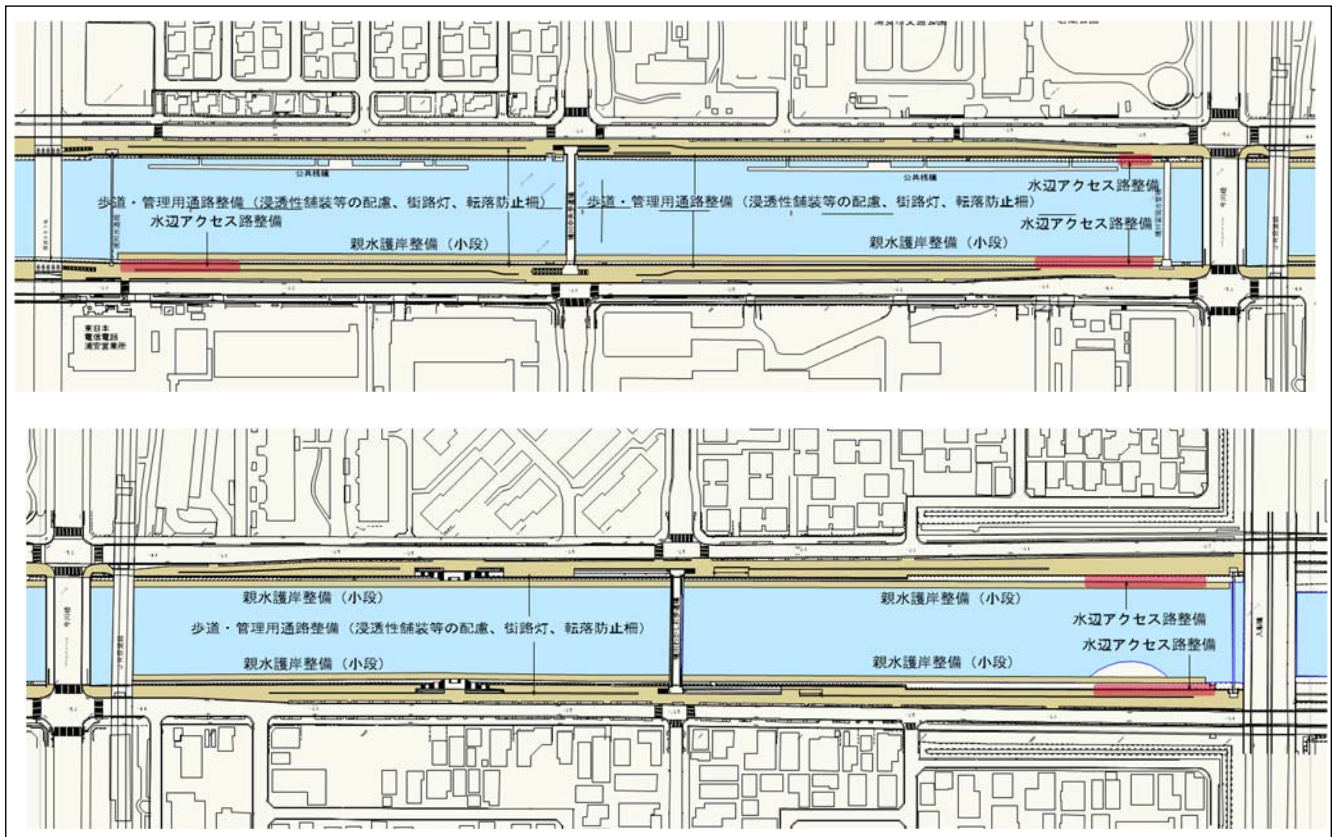


図 4.35 D1-2 ゾーン 整備計画案

- ・断面構成例



図 4.36 D1-2 ゾーン 整備計画案 断面構成例

※管理用通路の舗装（短期対応）

4.4.6 整備計画案

街路樹と植栽帯、自転車道、歩道、管理用通路（遊歩道）、小段と多くの構成要素があるので、道路幅員や河川区域の状況に応じて配置する要素を選択し、緑があり、水辺を楽しむこともできる空間形成に努める。



図 4.37 D1-2 ゾーン 整備計画案イメージ図

4.5 D2 ゾーン 新町エリア（水遊びの水辺）整備方針

4.5.1 整備テーマ ～ 水遊びが楽しめる水辺の公園 ～

沿川両側の緑地帯と一体となった緑豊かな憩いの場を創出する。また、海の近くで穏やかな水面が広がっている環境を活かし、釣り、カヤックや SUP などの水辺の遊びの場として利用しやすい水辺づくりを行う。

- ・沿川緑地と河川管理用通路及び護岸の一体的整備

沿川緑地と河川管理用通路及び護岸を一体として捉え、利用しやすいよう緩傾斜化して緑化することも検討する。

- ・親水施設の改修

現在は満潮時に水没するなどの問題があり立入が禁止されている親水施設を、水没しない安全な親水施設に改修し、立入可能とする。

- ・親水施設へのアクセス性の向上

親水施設へのアクセスのための斜路・階段を整備する。

海に近く、釣り、カヤックや SUP などの水辺の遊びの場として利用しやすいように、水辺へのアクセスをしやすく工夫する。

- ・沿川住民が育てる花壇

地域住民が共同で利用する場（花壇等）を提供する。

4.5.2 現状と課題および整備方針一覧表

表 4.6 現状と課題および整備方針一覧表

全体整備方針		D2 ゾーンの現状と課題	ゾーン別整備方針
前提条件	水害対策	高潮堤防整備済みだが、想定される最大限の高潮には対応していない。地盤沈下等で内水氾濫の危険性がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・河口水門整備で高潮防御。 ・河口水門による管理水位低下で雨水流下能力向上。 ・護岸の耐震化。
	水質改善	基準値クリア	
基本テーマ	緑のみち	河川管理用通路に並行して緑地帯がある。沿川住民が育てる花壇がある。街路灯は美観への配慮が不足。	<ul style="list-style-type: none"> ・沿川緑地と管理用通路及び護岸一体の緑地帯整備。 ・沿川住民が育てる花壇の保全。 ・歩行者にとって心地よい安全安心な街路灯の整備。
	水のみち	小段があるが、地盤沈下により満潮時水没する箇所が多い。小段への階段があるが、危険防止のため侵入禁止である。	<ul style="list-style-type: none"> ・親水施設の改修・安全対策。 ・階段と斜路の再整備。 ・安全対策を実施して開放する。
	歴史のみち		
	賑わいの水辺	釣り、カヤックや SUP など水遊びの場として利用が活発。水辺活用の組織は無い	<ul style="list-style-type: none"> ・水辺へのアクセス性向上。 ・水辺活用調整組織の整備。(花壇管理、水遊びイベント等)
(その他)	沿川に公衆トイレが無い(近接する公園にある)	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆トイレの案内看板設置。 	

注) 緑：中期対応、黒：長期対応

4.5.3 現状と課題

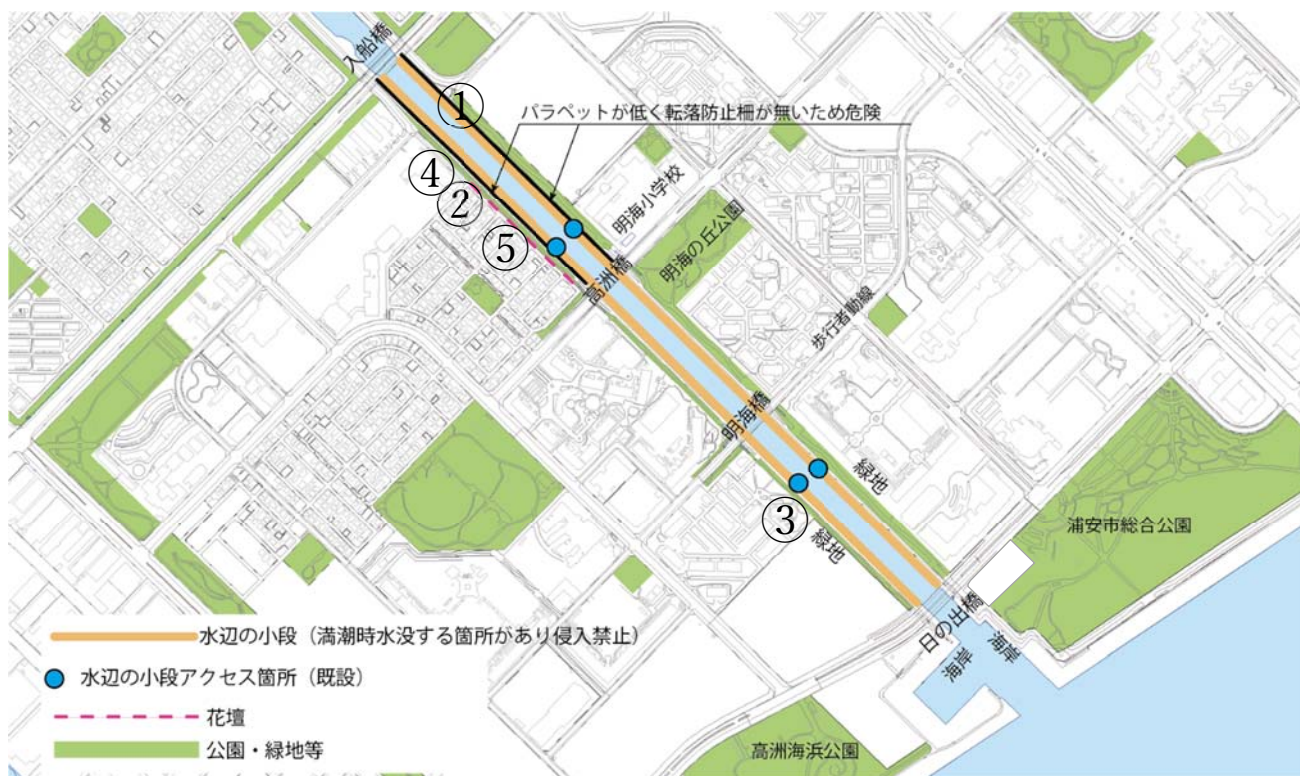


図 4.38 D2 ゾーン現状図



写真 4.20 ①満潮時水没する小段



写真 4.21 ②小段への階段、進入禁止



写真 4.22 ③小段～水面のアクセス未整備
(梯子利用)



写真 4.23 ④入船橋～高洲橋間
転落防止柵が無く危険



写真 4.24 ⑤緑化ボランティア管理の花壇
(一部箇所)

4.5.4 境川とまちへのアクセス

市街地から境川へのアクセス路となる道路との交差部は街角広場や花壇で修景する。
小段へのアクセス路として、既存の階段のバリアフリー化を行う。

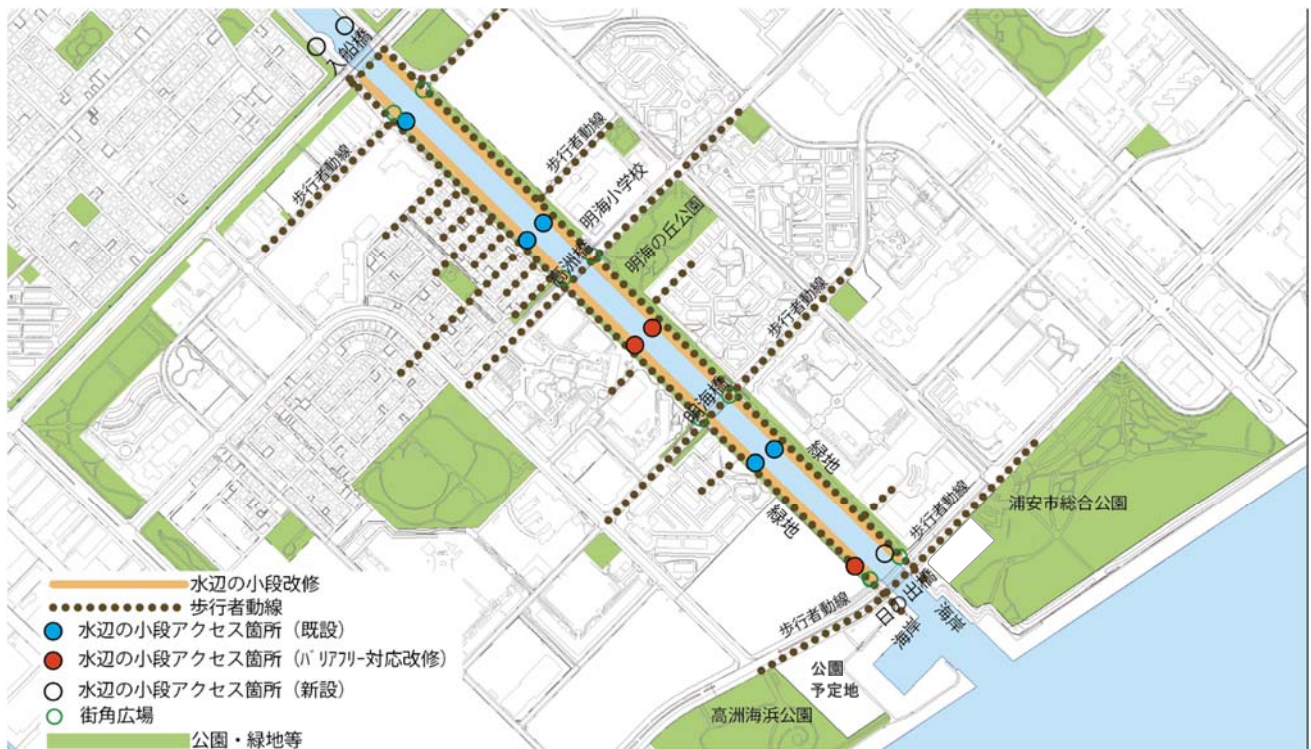


図 4.39 D2 ゾーン 境川とまちへのアクセス

4.5.5 整備方針

コンクリートブロック張りの既存護岸を残して、アクセス路のみ整備する以外に、既存護岸を撤去して緩傾斜化し緑化する方法がある。この場合、パラペット位置を移動する必要があるが、小規模なものなので水門完成時の撤去も容易である。

A案（長期対応）

- ・現況断面を活かして、階段・斜路・水辺アクセス路を整備
- ・管理用通路と緑地を一体化し、歩道と自転車道を整備
- ・街路灯・転落防止柵を設置

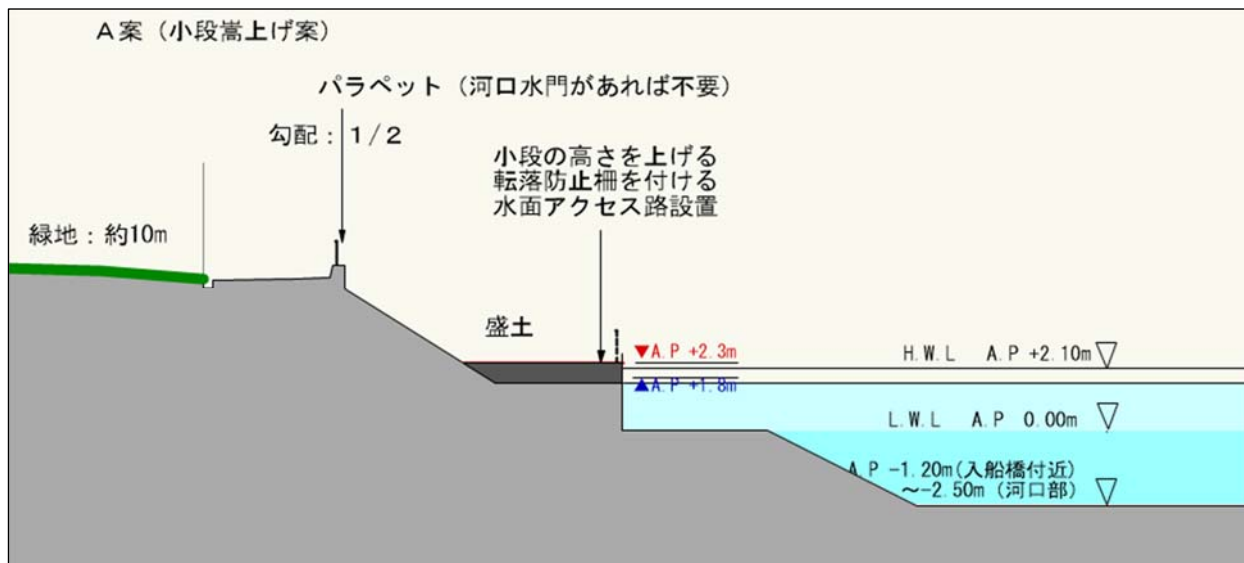


図 4.40 D2 ゾーン A案 整備計画 断面構成図 (例)



図 4.41 D2 ゾーン A案 (小段嵩上げ) イメージ (例)

B案（長期対応）

- ・擁壁撤去・緩傾斜化して緑化する、河川施設の大幅な変更を伴うが景観は良くなる。

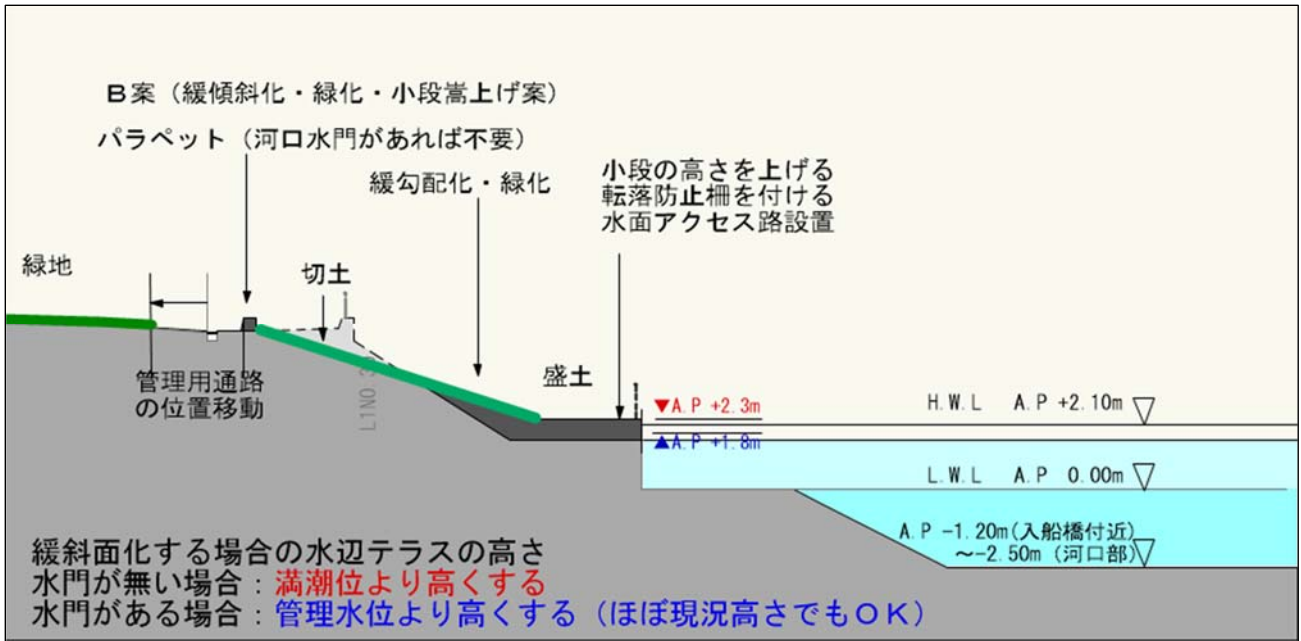


図 4.42 D2 ゾーン B案（緩傾斜化・緑化・嵩上げ） 整備計画 断面構成図（例）



図 4.43 D2 ゾーン B案（緩傾斜化・緑化・嵩上げ）イメージ（例）